

Nikon

IFN

Photomic

使用説明書



このたびは、**ニコンF2
フォトミック**をお買い上げいただきありがとうございます。カメラには「保証書」と「ご愛用者アンケートカード」が添付してありますのでご確認ください。

1. 「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客さまに直接お渡しすることになっております。

「ご愛用者氏名および住所」「ご購入年月日」「ご購入店名」がすべて記入された「保証書」を必ずお受取りください。

2. 「保証書」をお受取りになりませんと、ご購入後1年以内の保証修理を受けられないこととなります。

もし、お受取りにならなかった場合は、直ちにご購入店にご請求ください。

3. 「ご愛用者アンケートカード」は、必要事項をご自身でご記入の上ご投函ください。お送りくださった方には、弊社発行の「ニコンの世界」をお送りいたします。

各種交換レンズの特長、フィルターの使い方、接写などの詳細につきましては、「ニコンの世界」により、さらにご研究ください。

目次

各部の名称	4・5	フィルムの入れ方	20・21	スクリーンとレンズの組み合わせ	39
特長	6	フィルムの巻上げ	22	フラッシュ撮影	40・41
仕様	7	フィルムカウンター	23	レディライト	41
電池を入れてください	8	フィルムの巻戻し	24	ニコンF2用モータードライブ	42・43
銀電池について	9	操作の確認をしてください	25	被写界深度	44・45
露出計のスイッチ	9	ニコンF2システムの展開	26・27	絞込みボタン	46
電池のチェック	9	レンズの着脱	28・29	特殊な場合の露出の決定	46・47
カメラの構え方	10	セルフタイマー	30	接写	48
ピント合わせ	11	T-Lリング	30	複写	49
絞り	12	超スローシャッター	31	顕微鏡写真	50
シャッタースピード	12	多重露出	32	露出の補正	51
ASAのセット	13	ミラーアップ	33	フィルター	52
露出の決定(測光)	14・15	赤外マーク	33	レンズフード	53
適正露出	16	メモホルダー	33	接眼補助レンズ	54
開放測光	16	ファインダーの着脱	34・35	接眼目当て	54
絞込み測光	17	他のファインダーと交換したとき	36・37	カメラ用ソフトケースCS-12	54
シャッターリリース	17	ファインダースクリーンの交換	37	カメラの手入れと保存	55
撮影の基本操作	18・19	ファインダースクリーンの種類	38		

各部の名称

前面

フィルム感度(ASA)ダイヤル

シャッターセットリング(ASAセットリング兼用)

巻上げレバー

スイッチONマーク

シャッターボタン

T-Lリング

フィルムカウンター

ミラーアップレバー

絞込みボタン

セルフタイマーレバー

絞りリング

距離目盛

絞り指標

距離指標

ファインダー着脱レバー

電池チェックボタン

露出計指針窓

巻戻しクランク

巻戻しノブ

アクセサリシュー

開放Fナンバー表示窓

つり金具

シンクロソケット

レンズ着脱指標

レンズ着脱ボタン

露出計連動爪

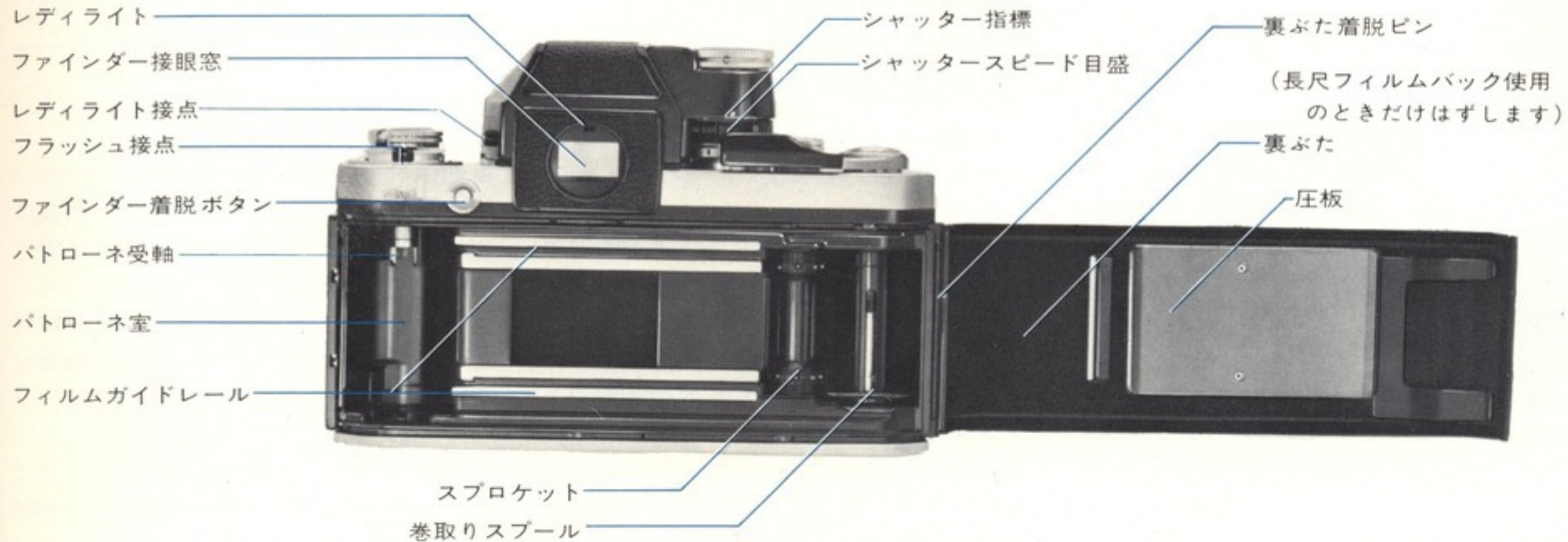
絞り目盛

被写界深度目盛

距離リング



裏面(裏ぶたを開いたところ)



底面



特長



ニコンF2 フォトミックは、数々の特長と豊富なアクセサリによって、あらゆる撮影を可能にします。

- ニコンF用のすべてのレンズが使用できます。
- ファインダーは、撮影画面が100%そのまま見られます。また、他の各種ファインダーと交換できます。
- シャッター幕はチタン製ですから、熱に強く、耐蝕性にもすぐれています。
- シャッタースピードは、10秒～ $\frac{1}{2000}$ 秒がセットでき、 $\frac{1}{80}$ 秒(X接点)～ $\frac{1}{2000}$ 秒では、中間スピードが使えます。

- 多重露出が容易にできます。
- 露出計は、TTL式中央部重点測光で、シャッタースピードおよび絞りの両方に連動します。
- ファインダーの視野には、露出計指針とシャッタースピードおよび絞り数値が同時に見えます。
- ファインダー接眼窓には、レディライト（ストロボ用のシグナルランプ）が組み込まれています。
- モータードライブとの連結機構つきですから、簡単にモータードライブと連結できます。
- モータードライブで巻戻しができます。

仕様

カメラ

形式

35mm一眼レフレックスカメラ

画面サイズ

24mm×36mm

ファインダー視野

撮影画面の100%

レンズマウント

ニコンFマウント

レンズ絞り

瞬時復元式 被写界深度観測用絞り込み

ボタンつき

ミラー

瞬時復元サスペンション式 ミラーアップ可能

ファインダー

TTL式露出計内蔵 レディライトつき

ファインダースクリーン

A型(スプリット式)つき 他の型のもものと交換可能

シャッター

チタン(軽金属)製フォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード

T.B.1. ~ 1/2000秒

および2秒~10秒の超スローシャッター可能

1/80秒(X接点)~1/2000秒は目盛の中間

スピード可能

セルフタイマー

作動秒時可変式

シャッターチャージ

レバー式フィルム巻上げ兼用一作動

(120°)巻上げ 小刻み巻上げ可能

フィルムカウンター

自動復元順算式

シンクロソケット

コードレス接点およびJIS-B型(ねじ止め式)接点 X接点は1/80秒

裏ぶた

蝶番式(取りはずし可能)

大きさ(ボディおよびファインダー)

152.5mm(横)×102mm(高さ)×65mm(幅)

重量(ボディおよびファインダー)

840g

露出計(ファインダー部内蔵)

形式

TTL開放測光式(中央部重点測光)

被写体輝度測光範囲

0.25~16000cd/m²

ASA100のフィルム使用の場合EV1~EV17(たとえば50mmF1.4レンズを使用した場合、f/1.4・1秒が適正である明るさから、f/8・1/2000秒が適正である明るさまで連動可能)

絞り連動目盛

f/1.2~f/32

シャッタースピード目盛

B~1/2000

開放Fナンバー目盛

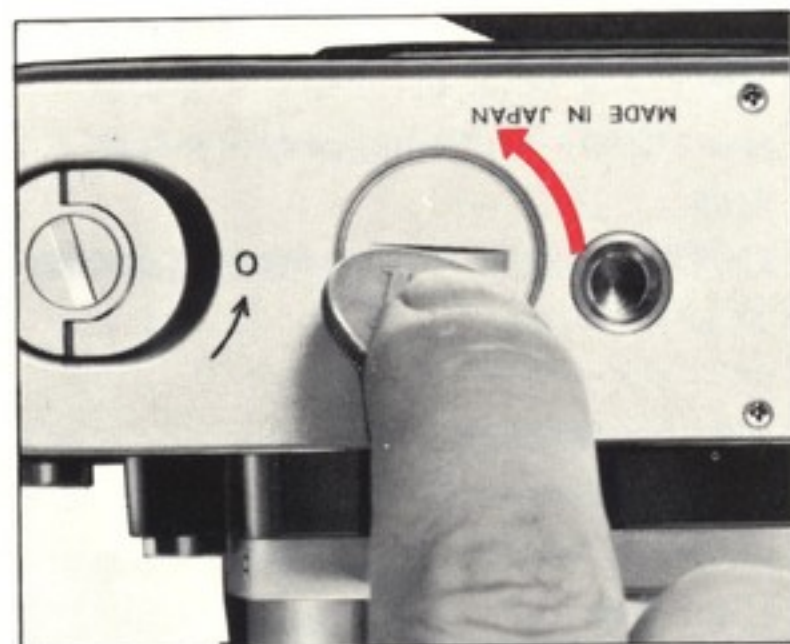
1.2~5.6

電池

1.5V銀電池2個(3V)使用

電池を入れてください

電池は別包装で添付しております。包装の注意書きをよくお読みになってお使いください。
電池は両面を柔らかい紙でよく拭いて入れてください。



電池室のふたを硬貨などで、ふたの溝の方向がボディのふちと直角になるように左方へ回して開きます。



電池は2個とも^{プラス}極（平らな方）が見えるようにして重ねて入れます。

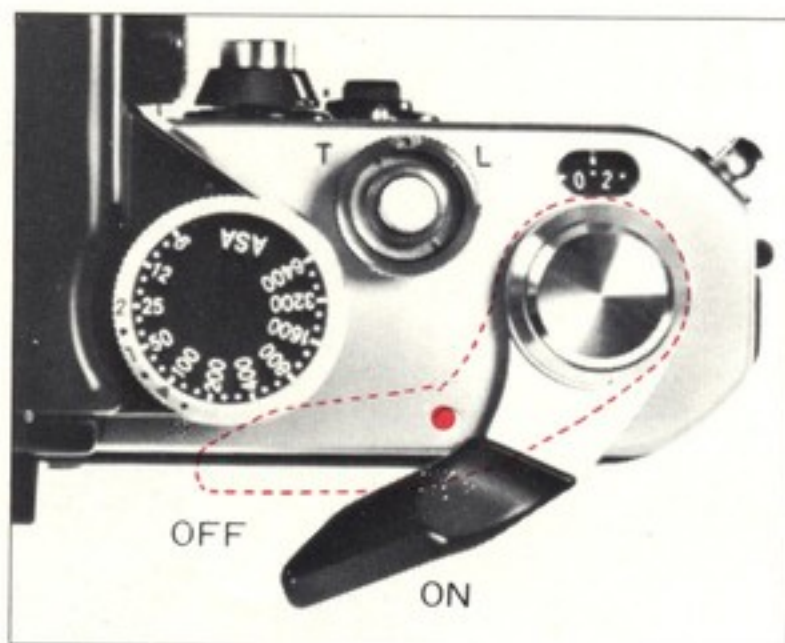
銀電池について

ニコンF2フォトミックの露出計には、1.5Vの銀電池（JIS規格G-13相当品、たとえばEVEREADY S-76など）を2個（3V）使います。

同一寸法の水銀電池がありますが、電圧が異なるため使用できませんので、ご注意ください。

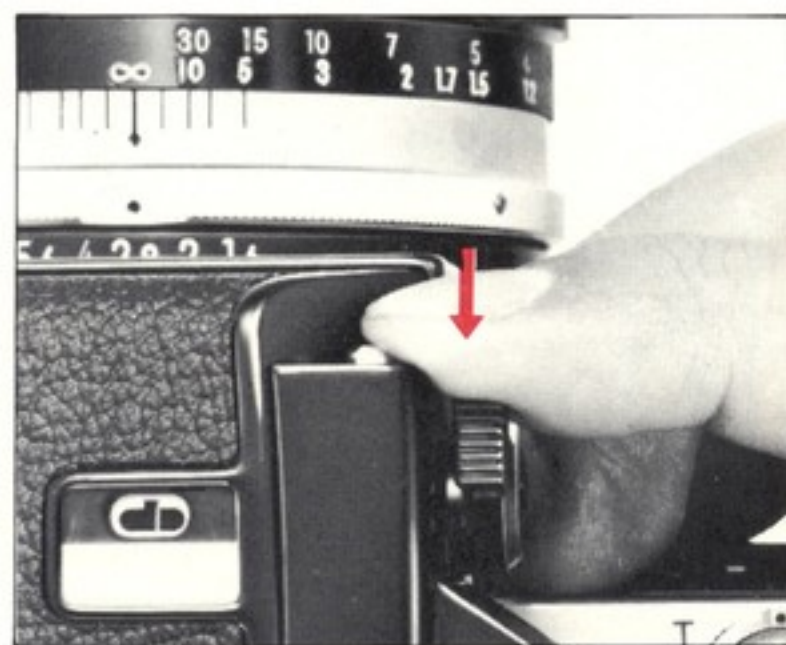
- 長期間、電池室に入れたままでおきますと、漏液などのために接触不良を起こしやすいので、電池および電池室の接触部を、ときどき柔らかい紙でよく拭いてください。漏液が認められたら電池を交換してください。
- カメラを長期間使わないときは、電池を取出しておいてください。
- 電池は分解したり、ショートさせたり、火の中に入れてたりしないでください。
- 酷寒時には、電池の性能が低下しますので、スイッチONのまま明るい光に長時間向けておかないようご注意ください。露出計が正常に働かないおそれがあります。常温に戻れば回復します。
- スイッチONの状態のままでは、電池を短時間で消耗するおそれがあります。測光および露出時を除き、なるべく巻き上げレバーを格納位置に戻して（スイッチはOFFとなる）電池の消耗を避けるようにしてください。

露出計のスイッチ

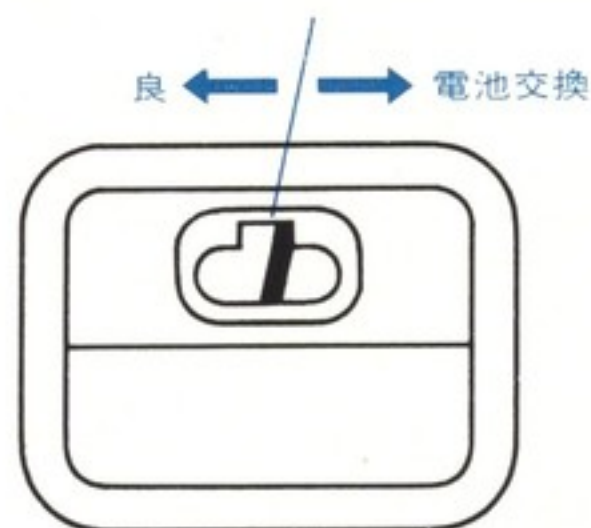


ニコンF2フォトミックでは、巻き上げレバーが露出計のスイッチを兼ねています。巻き上げレバーを赤丸の見えるところ（予備位置）まで引出すとスイッチがはいります。巻き上げレバーを元の位置に押し込むとスイッチが切れます。

電池のチェック



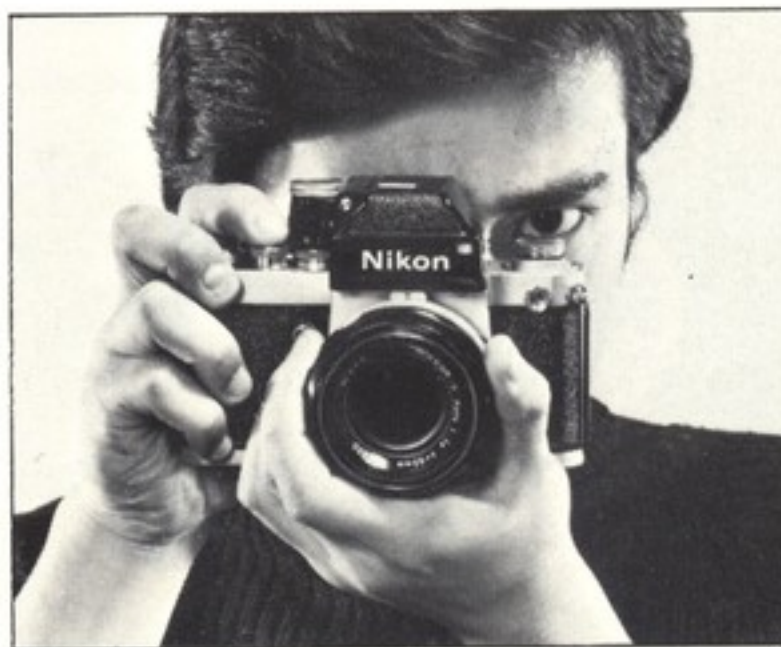
巻き上げレバーをスイッチONの位置にして電池チェックボタンを押して、電圧をチェックしてください。



銀電池は、寿命がくると性能が急激に低下しますので、針の振れが足りないときは電池を交換してください。

カメラの構え方

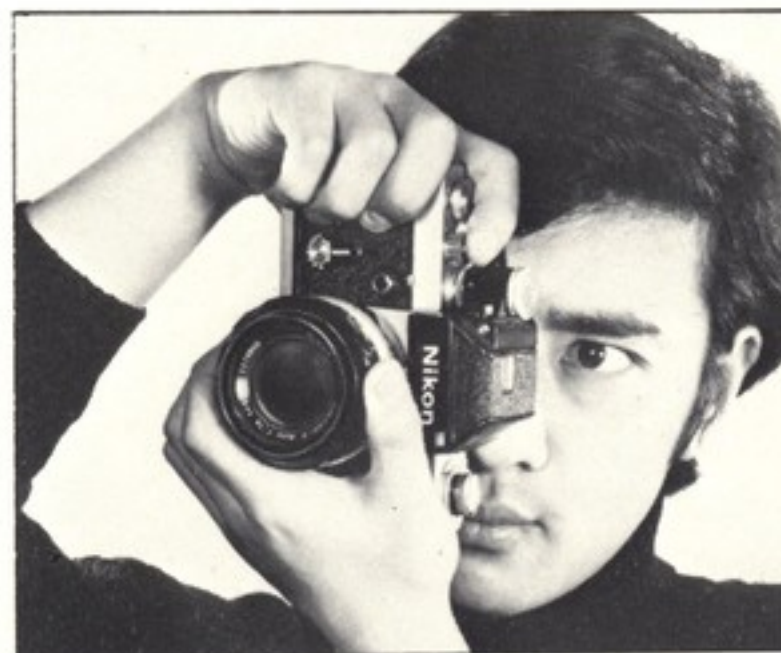
一般には、右手でフィルム巻上げとシャッターレリーズを、左手でピント合わせと絞りの調節を行ないます。建物や立木を利用して、腕やカメラを支えることもよい方法です。



一般的な横位置



縦位置 (その2)



縦位置 (その1)



縦位置 (その3)

ピント合わせ

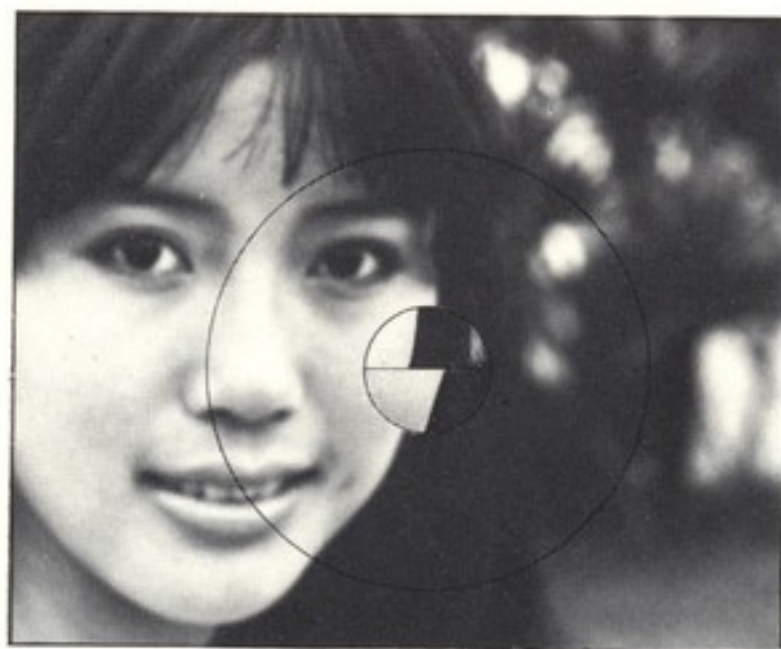
構図を決めたらピントを合わせます。ニコンF2フォトミックに最初から組込まれているファインダースクリーンはA型（スプリット式）です。



視野の中央のスプリットプリズム部で像のズレを見ます。

ファインダーをのぞきながら、距離リングを回してピントを合わせます。

ピント合わせのテクニックには、被写界深度のことも関係します。P.44・45をご参照ください。



ピントが合っていないとき

中央の水平線の上下で像が左右にずれて、像がぼけています。



ピントが合ったとき

上下の像のずれがなくなり、像がハッキリします。

絞り



- ニッコールオートレンズは、カメラに取りつけて絞り目盛を動かしても、絞りの状態がつねに開放絞り（いちばん開いた状態）で、シャッターボタンを押してシャッターが開いている時だけセットした絞りの状態になるレンズです。これを自動絞りといいます。
- 光量を半分にするを、1段絞るといい、その反対に2倍にするを1段あけるといいます。
- 絞りは、また、被写界深度と、大いに関係があります。(P.44参照)

シャッタースピード

シャッタースピードの目盛には、次の数字があります。

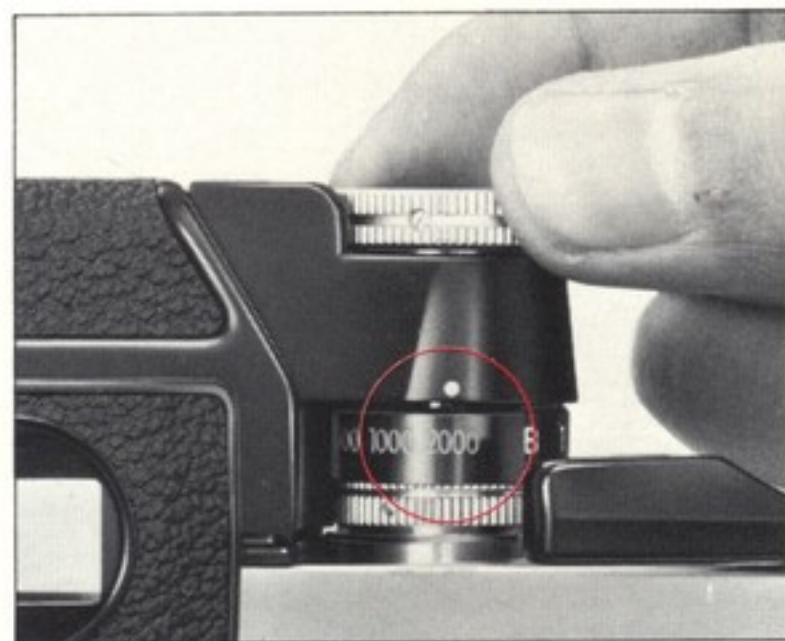
B、1、2、4、8、15、30、60、125、250、500、1000、2000

Bはバルブ、1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒、…60は $\frac{1}{60}$ 秒、…2000は $\frac{1}{2000}$ 秒を示します。Bを除き隣り合う目盛はお互いに露出光量が2倍（または $\frac{1}{2}$ ）の関係になっています。60と125の間の赤線は $\frac{1}{80}$ 秒（X接点）の指標です。

シャッタースピードのセット

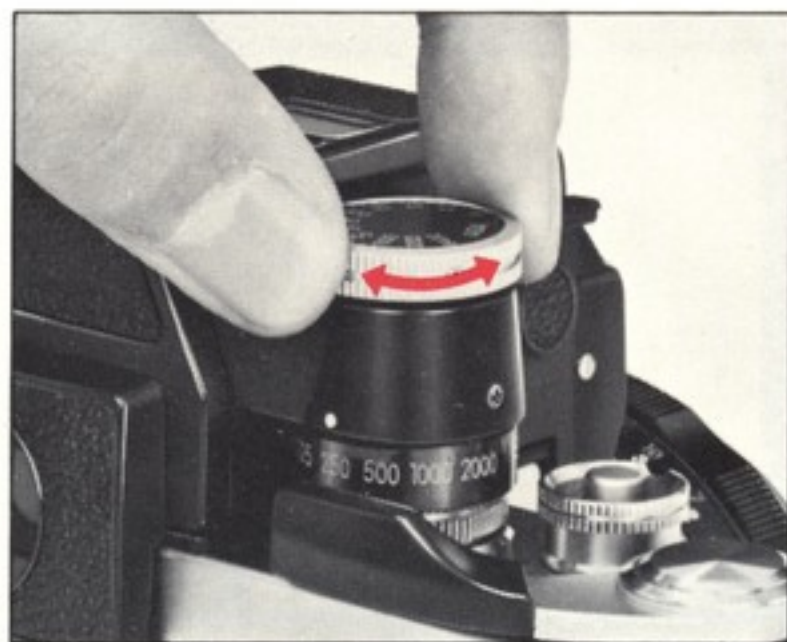
シャッターセットリングを、右または左に回して指標に数字をクリックの位置で合わせます。

赤線（ $\frac{1}{80}$ 秒）と2000（ $\frac{1}{2000}$ 秒）の間では、クリックの間でも連続して中間のシャッタースピードが得られます。



ASAのセット

フィルムを入れたら、必ずそのフィルムの感度 (ASA) をセットしてください。これは露出計で露出を測るために大切なことです。忘れずに行なってください。



シャッターセツトリングをつまみ上げて回し、▼指標をセツトするASA数字に合わせて、クリック位置で落込ませます。



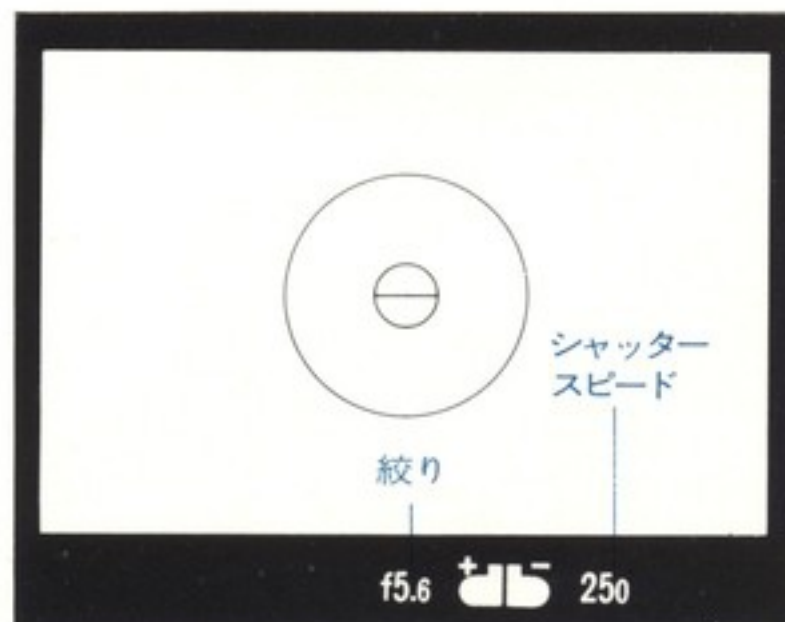
数字のない点のASA感度数値は上図のようになっています。

▼指標の前後の点および数字は、ファインダースクリーンの種類による補正用です。(P.38参照)

露出の決定(測光)

ニコンF2 フォトミックでは、主要被写体をファインダー視野の中央部分に入れ露出計の針の動きを見ながらシャッタースピードまたは絞りを変え、露出計の針をその窓枠の中央にもってくると、適正露出が決められます。

一般には、まずシャッタースピードをセットしておいて、絞りを換えながら露出を決めます。






露出計の針の動きは、ファインダーの視野枠の下方と、ファインダー外部上面の露出計指針窓で見られます。

ファインダー内では、その時のシャッタースピード値と、絞り値が同時に確認できます。



シャッターセットリングを回す方向および絞りリングを回す方向と針の動く方向



指針の動き	このままでシャッターを切ると
	適正露出です
	露出不足です
	露出オーバーです

シャッターセトリングを回して、B(バルブ)で針が中央に来たときは、2秒でシャッターを切ってください。

このようなときは

露出計の針が全く動かない。

- ①巻上げレバーが赤丸の見えるところまで引出してありますか。
- ②電池が消耗していませんか。(電池チェックボタンを押してみる)

針は動くが中央に合わせられない。

- ①絞りを開放にしても、針が⊖から中央まで行かないときは、シャッタースピードを一段遅くしてみる。
- ②絞りを最小にしても、針が⊕から中央に戻らないときは、シャッタースピード

を1段速くしてみる。

- ③針が急に右または左に動いてしまって中央に合わせられないことがあります。これは故障ではありません。被写体の明るさに対して、そのときのシャッタースピードまたは絞りのセットが不適當であることを示しているのです。このようなときは、シャッタースピードを合わせ直してから測光してください。それでも駄目なときは、被写体が極端に明るい、または暗いかで露出計の運動範囲外です。NDフィルターをかけるとか、フラッシュユニットを使うとかの考慮が必要でしょう。

適正露出

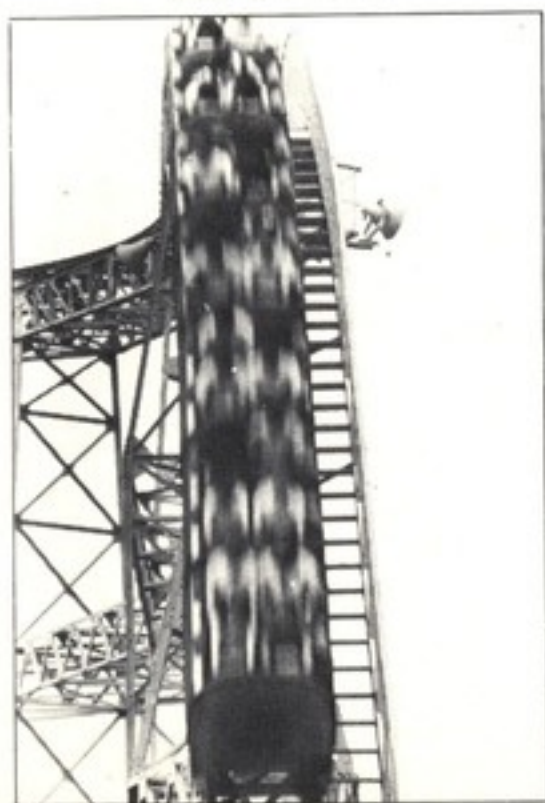
露出はシャッタースピードと絞りの組合わせで決まりますが、同じ適正露出（光量）でもシャッタースピードと絞りの組合わせは、いくつかあります。（露出計の測光能力範囲内で）

次の表は、その組合わせの一例です。

シャッター スピード (秒)	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60
絞り f/	4	5.6	8	11	16

動きの早い被写体を同じ光量で撮影した写真の比較

1/60秒 f16



1/1000秒 f4



目的によって、最初にどのシャッタースピード（または絞り）をセットするかを決めます。

- ・動きの早い被写体をぶれないように写したいときは、なるべく早いシャッタースピードで。
- ・被写界深度を深くしたいときは、絞込んで。（P. 44・45参照）

開放測光

連動爪のある各種のニッコールオートレンズをつけた場合の測光方法で、開放絞りのままの明るいファインダー視野を見ながら露出が決められます。

通常の撮影はこの方法で露出を決めます。開放測光では、測光の手順は次のようになります。

- ①フィルムを入れたときに、「フィルム感度(ASA)」をセットする。（P. 13参照）
- ②レンズを取りつけるときに、そのレンズの開放Fナンバーをセットする。（P. 29参照）
- ③露出計のスイッチをONにする。（P. 9参照）
- ④構図を決めピントを合わせる。
- ⑤露出を決める。

絞込み測光

連動爪のないレンズをつけたときや、接写リングなどをつけたために連動爪が使えない場合の測光方法です。

この場合は絞込むにしたがってファインダー視野は暗くなります。

絞込み測光では、前述の①～⑤の手順のうち②の開放Fナンバーのセットの代わりに、レンズや接写リングを取付ける前に、ファインダーの露出計連動ピンを中央位置で指先か硬貨などで上方に押し上げておく（カチャと音がして、開放Fナンバー目盛が5.6になる）必要があります。

連動爪のないオートレンズ（たとえば、200～600mmズーム、メディカル、マイクロPオートにM₂リングつき、400mm、600mm望遠など）を使用する場合は、ピント合わせは開放絞りで行なえますが、測光は絞込み測光で、カメラの絞込みボタン（P.46参照）を押しながら露出を決めます。



シャッターレリーズ

シャッターボタンは、カメラぶれを起こさないように押すことが第一要件です。カメラを三脚に取りつけて使うときは、ケーブルレリーズの使用をおすすめします。

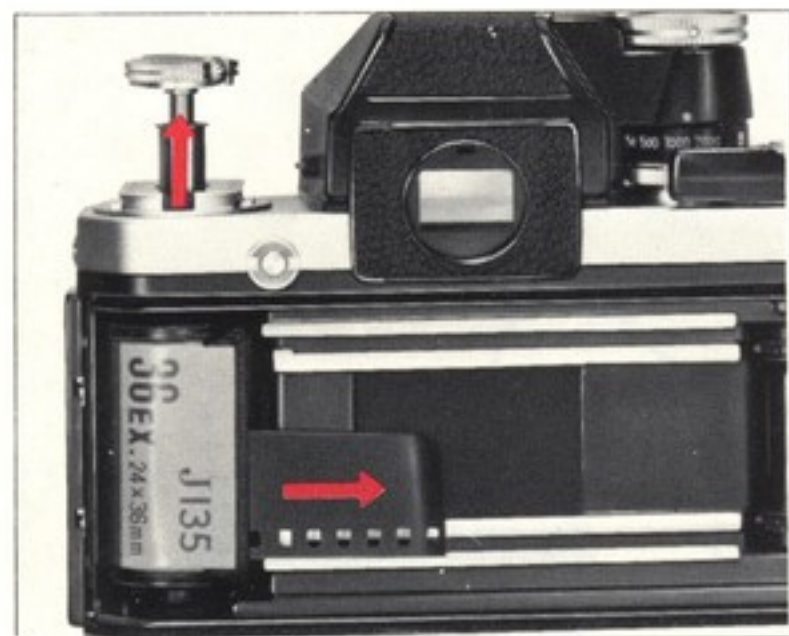


このようなときは

シャッターボタンが動かない。

- ①巻上げがしてないか、不十分のとき。
- ②T-LリングがLになっているとき。

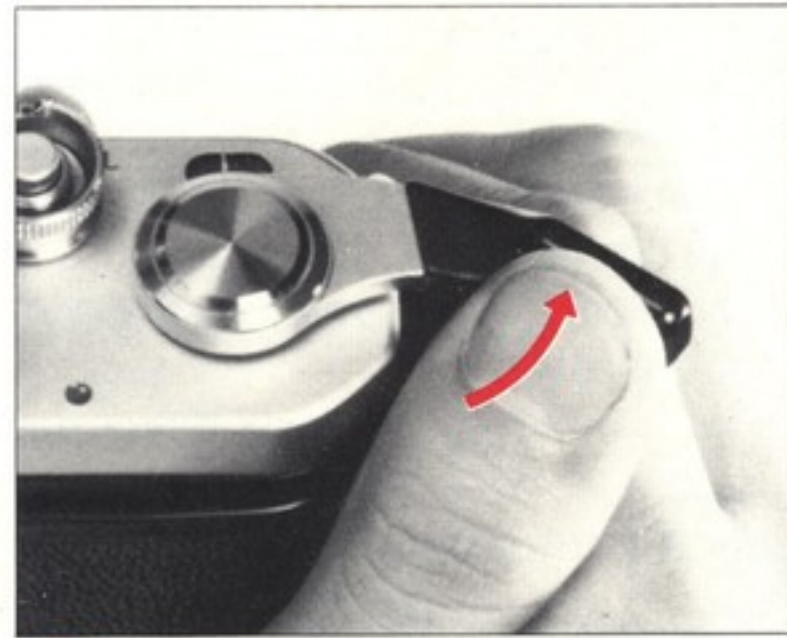
撮影の基本操作 (取扱いの詳細は、各参照ページをご覧ください)



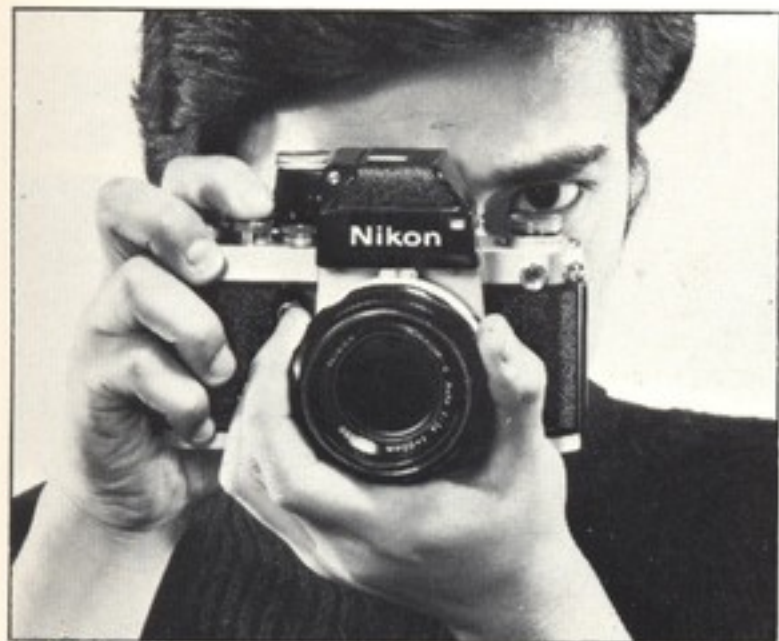
1 裏ぶたを開けてフィルム（パトローネ）を入れます。(P.20)



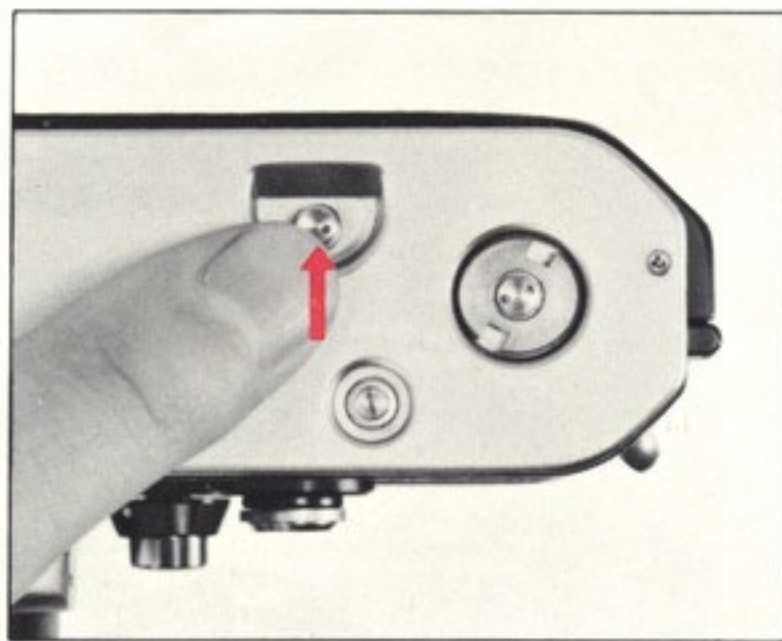
2 フィルム感度（ASA）をセットします。(P.13)



3 フィルムを巻上げます。(P.22)



4 構図の決定、ピント合わせを行ない(P.11)、露出を決めて(P.14)シャッターを切ります。



5 巻戻し用ボタンを押します。(P.24)



6 フィルムを巻戻し、裏ぶたを開いてフィルムを取出します。(P.24)

フィルムの入れ方



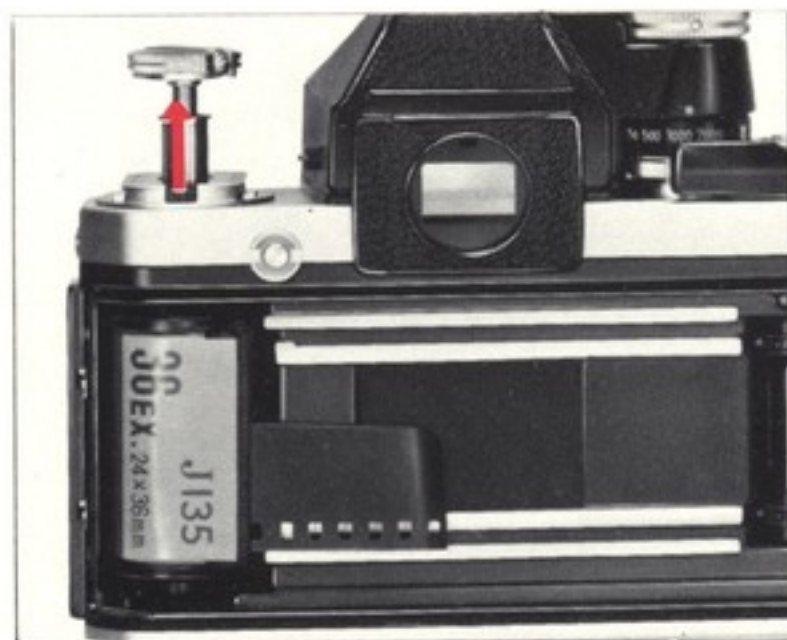
裏ぶた開閉キーのつまみを起こし、▼印を0の方へ回し、最後に少し強く力をいれると、裏ぶたが開きます。

フィルムの出し入れは、直射光をさけて、物陰で行なってください。

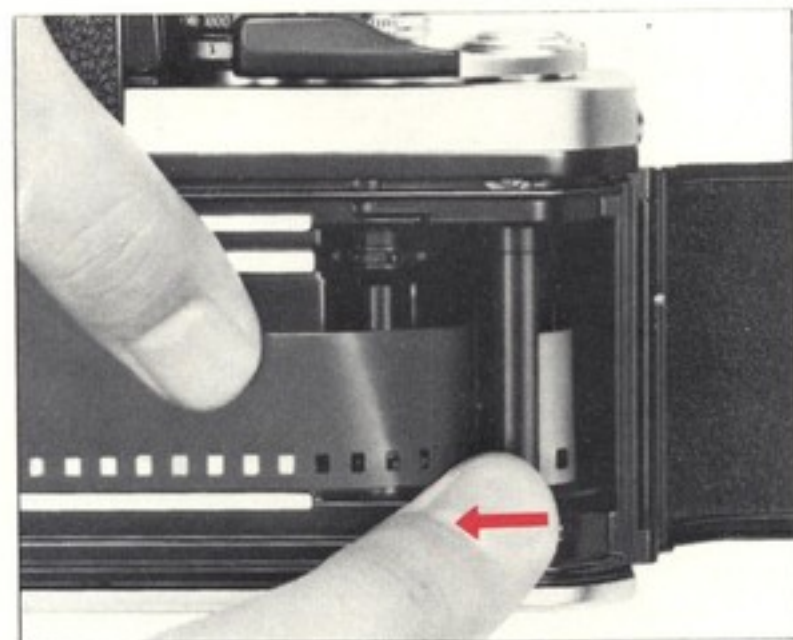
フィルムは、一般市販のパトローネ入りのものがすべて使えます。

専用マガジンとして、ニコンマガジンAM-1を販売しております。

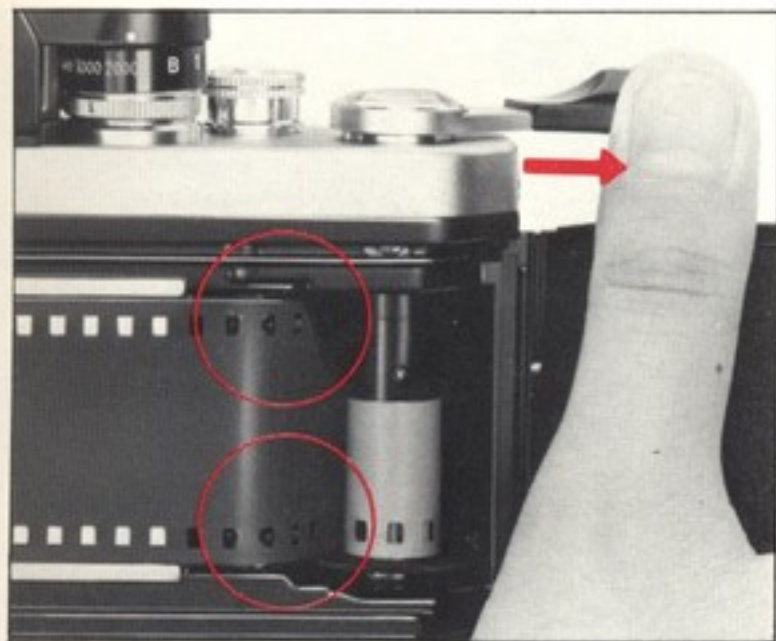
(F用のマガジンは使えません。)



巻戻しノブを引上げて、パトローネを入れ、ノブを下げます。

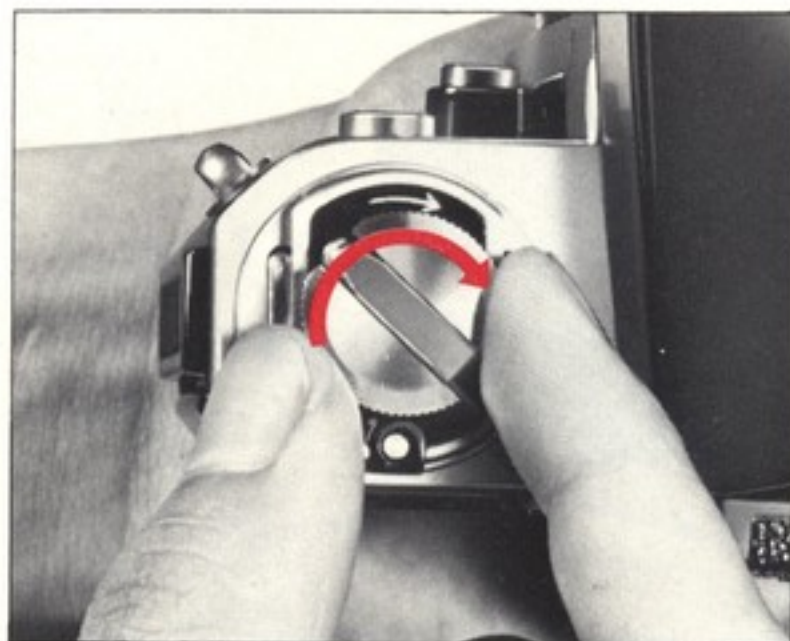


フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、フィルムの穴に溝の突起がかかるように指先でスプールを少し回します。

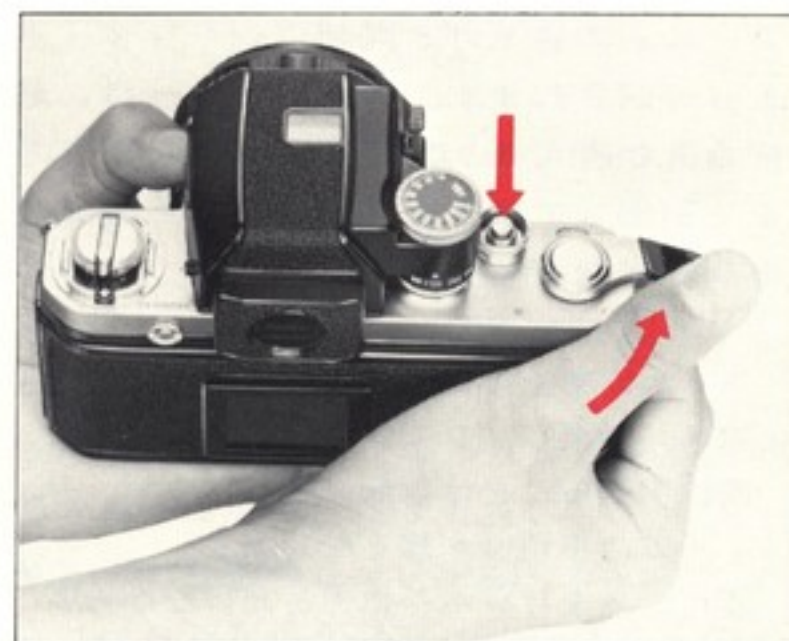


巻上げレバーでフィルムがスプールにほぼ1回巻きつくまで送ってください。裏ぶたを閉じて、裏ぶた開閉キーをCの方へ回しておきます。(フィルムカウンターはSになります)

フィルムの穴がスプロケットにかみ合っているか、上下のガイドレールの間にはフィルムがおかれているか、よく確かめてから裏ぶたを閉じてください。



巻戻しノブを矢印の方へ静かに回して、パトローネ内のフィルムのたるみをなくしておきます。



フィルムを入れてしまったら、まず、から写し(フィルムを入れるときに感光した部分の巻取り)を2回(2コマ)行なってください。

フィルムの巻上げ

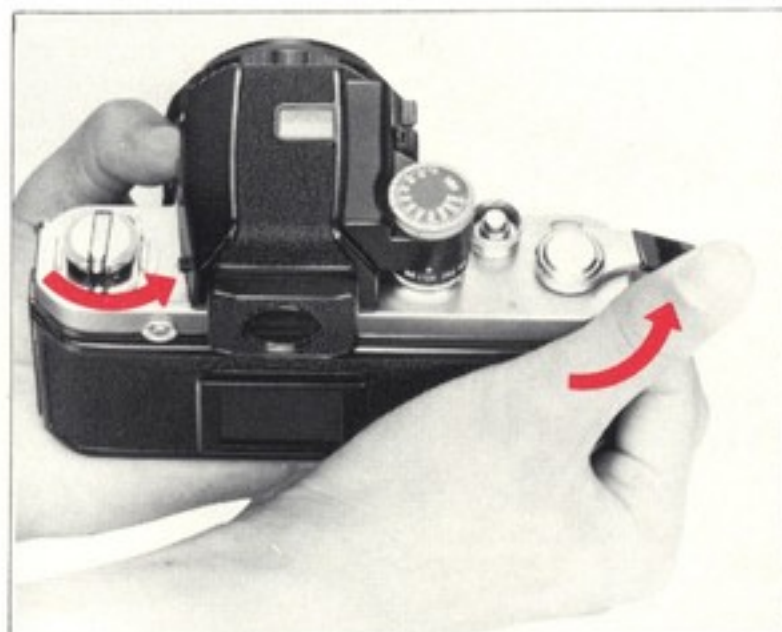
フィルムの巻上げと同時にシャッターもチャージされます。巻上げレバーは、最初赤丸がみえるところ(予備位置…約20°)まで引出しておきます。

小刻み巻上げもできます。

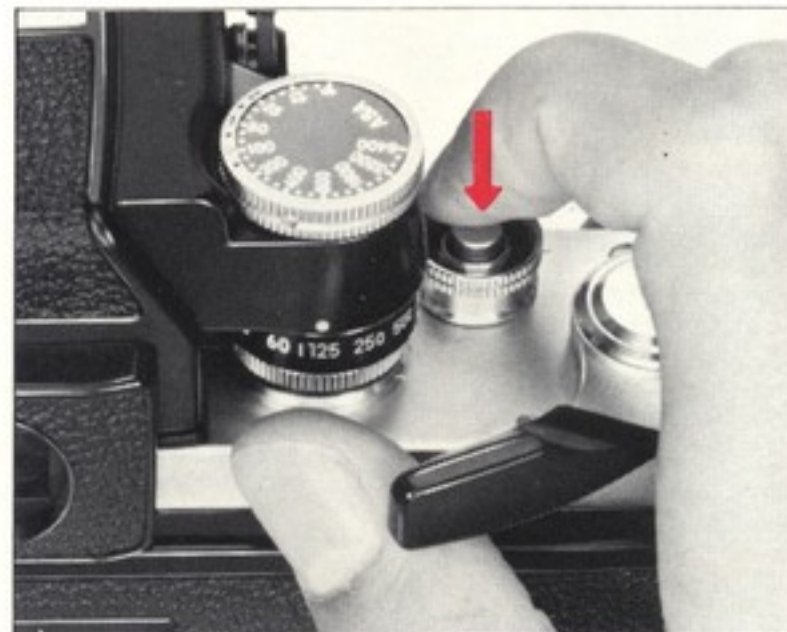
フィルム巻上げの際、(から写しのときを除き)巻戻しノブでフィルムを巻戻し方向に引張ることはしないでください。フィルムの平坦性が悪くなります。

また、巻上げレバーに力をかけながらシャッターを切らないでください。

フィルム1本の終りになると、レバーが途中で巻上げられなくなることがあります。無理に巻上げないで、レバーをそのままの状態にして巻戻しの操作を行なってください。



レバーを右へ止まるまで回します。(フィルムが確実に巻かれているなら、巻戻しノブが回転します)指をはなせば、レバーは予備位置まで戻ります。



シャッターを切ります。から写しは、この操作を2回くり返します。から写しをしたあと、もう一度巻上げるとフィルムカウンターが1になり、撮影準備OKです。

1コマ撮影するごとに、この巻上げ操作をくり返します。


フィルムカウンター




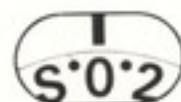
フィルムカウンターは、フィルムを1回巻上げることにより1目盛ずつ動きます。

(40以上は進みません)

裏ぶたを開くと、自動的にSに戻ります。

 裏ぶたを閉じたとき

 から写し1回目

 から写し2回目

 撮影1枚目

 撮影20枚目

 撮影36枚目

 裏ぶたを開くと

このようなときは

巻上げレバーが回せないか、回ってもすぐ止まってしまう

①すでにフィルムが巻上げられているからです。シャッターを切るまで回りません。

②フィルムが終りになったときです。無理に巻上げてはいけません。

巻上げても巻戻しノブが回らない。

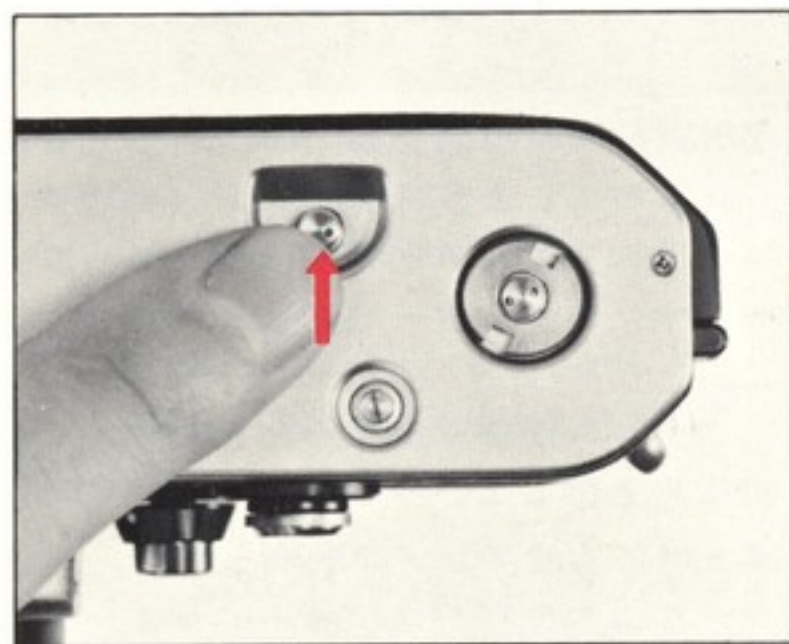
フィルムの先端がスプールにうまくかかっていないからです。フィルムを入れ直してください。

何コマか巻上げていくうちに巻上げがだんだん重くなる。

フィルムが片寄って巻上げられているからです。

無理に巻上げるとフィルムが切れてしまうことがあります。

フィルムの巻戻し

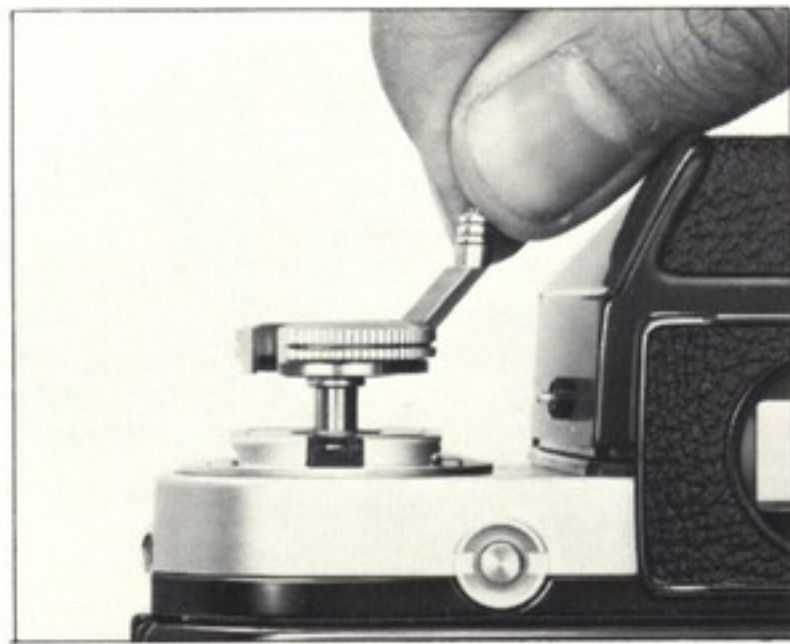


まず、巻戻し用ボタンを押します。(ボタンは押し続ける必要はありません。)

巻戻しが完了するまでは、裏ぶたをあけてはいけません。

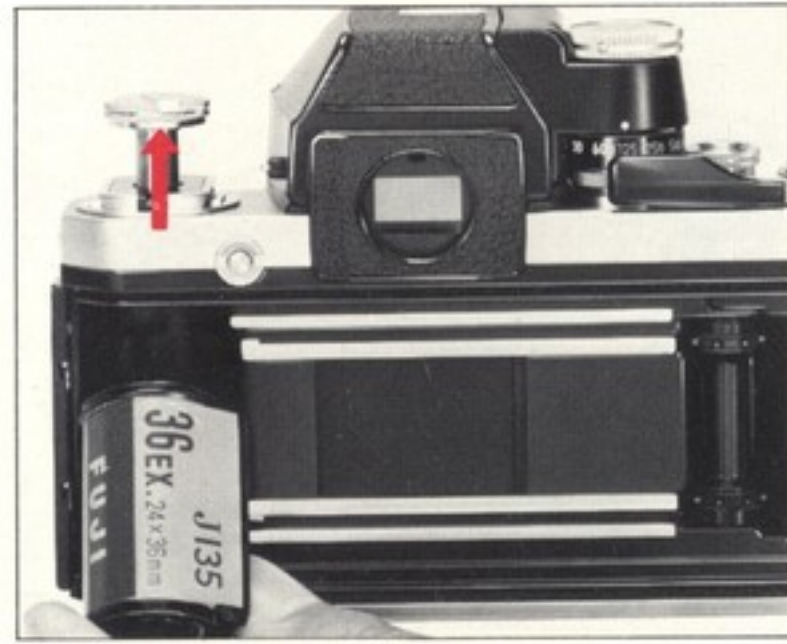
巻戻しが終りに近づくとクランクにちょっと抵抗を感じます。(これはフィルムがスプール溝から離れるときです) さらに少し回してクランクが軽くなったところで止めます。

取出したパトローネは、明るいところへ放置しておかないようにしてください。



巻戻しノブを1段引上げ、クランクを起こして矢印の方向へ回します。

巻戻しノブを引上げなくても巻戻しはできますが、引上げて行なった方が楽です。巻戻しノブは矢印と反対方向に少し回して押し下げると収納できます。



裏ぶた開閉キーを0に回して裏ぶたを開きます。

巻戻しノブを、さらに引上げてパトローネを取出します。

このようなときは

●巻戻しクランクが回らない

巻戻し用ボタンを押しましたか

●巻戻しの終りを確実に知りたい

フィルムが巻戻されている間は巻戻し用ボタンが回っていますが、フィルムがスプールからはずれると回転が止まります。

操作の確認をしてください

撮影を急ぐあまり、あるいは撮影に夢中になってうっかりしていることがあります。ここに挙げた事項を確認しながら操作するように習慣づけましょう。

撮影にはいる前に

- ① フィルムのたるみをとりましたか。これは最初に必要です。これを忘れるとフィルムが正しく送られないことがあります。
- ② 巻上げ中に巻戻しノブが回っていますか。
から写しのうちに確かめましょう。
- ③ フィルム感度(ASA)はセットしましたか。
セットが正しくないと適正露出が得られません。
- ④ レンズの開放Fナンバーは合っていますか。
レンズをつけたときは必ず確かめましょう。
- ⑤ 露出計のスイッチははいていますか。



ニコンF2システムの展開

機能的なボディ

ニコンF2 フォトミックはとくに持った時の感覚を重視し、ボディに丸味をもたせました。ボディは、他の機種にはない機構を数多く採り入れて操作性を増し、さらに完全互換性を基盤とした多様なシステムの展開を可能にしております。



ファインダーシステム

交換ファインダーは、コンパクトなアイレベルファインダーをはじめ、スポーツ動体撮影に最適のアクションファインダー、ローアングル撮影用のウエストレベルファインダー、新開発の高倍率ファインダーが用意され、ワンタッチで交換可能です。ファインダースクリーンも標準のA型をはじめ全部で13形式19種類、撮影目的に応じて最も適したものが選べます。

交換レンズシステム

焦点距離6mmから2000mmまで40本以上におよぶ豊富なニッコール交換レンズはすべてこのカメラに用いることができます。この中には、あおり撮影ができるPCニッコール、ストロボやフラッシュ撮影に便利なGNニッコール、ストロボ内蔵のメディカルニッコール、超望遠レンズ、反射型のレフレックスニッコールなどニコン独自の特殊な交換レンズが含まれており、あらゆる用途に対応してこのカメラの機能を最大限に生かします。

モータードライブシステム

ニコンF2 フォトミックのモータードライブ装置は、10余年にわたる当社の経験と技術を集大成して完成したもので、完璧な互換性、正確な作動、きびしい使用条件にもビクともしない耐久性など他に類をみない機構と抜群の性能を持っています。カメラには裏ぶたを取りはずすことなく無調整で簡単に装着できます。また、250枚撮りフィルムバックも用意されており、各方面の幅広い用途にお応えできます。

接写・スピードライトシステム

接写・複写用には、手軽に装着でき手持ちで接写が行なえるクローズアップレンズから、等倍以上の拡大撮影が広範囲にわたって行なえるペローズアタッチメントまで、撮影倍率に応じた種々のアクセサリが完備しています。

また、ニコンスピードライトには、自動調光式で高性能なスピードライトSB-2（ニコンF2用）、SB-3（ニコマート用）、同じく自動調光式で小型軽量、機動性に富むスピードライトSB-4がそろっています。その他、近距離の被写体を均等に照明することができるマクロリングライトSM-2、リングライトSR-2があります。

レンズの着脱

レンズの取りはずし

レンズ着脱ボタンを押したままで、レンズの絞り指標リング（白いリング）を持ってレンズを右へ止まるまで回し、レンズを静かにはずしてください。（露出計の連動ピンとレンズの連動爪は離れます。）

大型のレンズや、ペローズアタッチメントなどへの着脱はカメラの方を回します。

レンズをはずしたカメラのレンズマウント部から直射光がはいらないように気をつけてください。漏光のおそれがあります。

レンズをはずしたカメラを保存するときは、ボディキャップの利用をおすすめします。



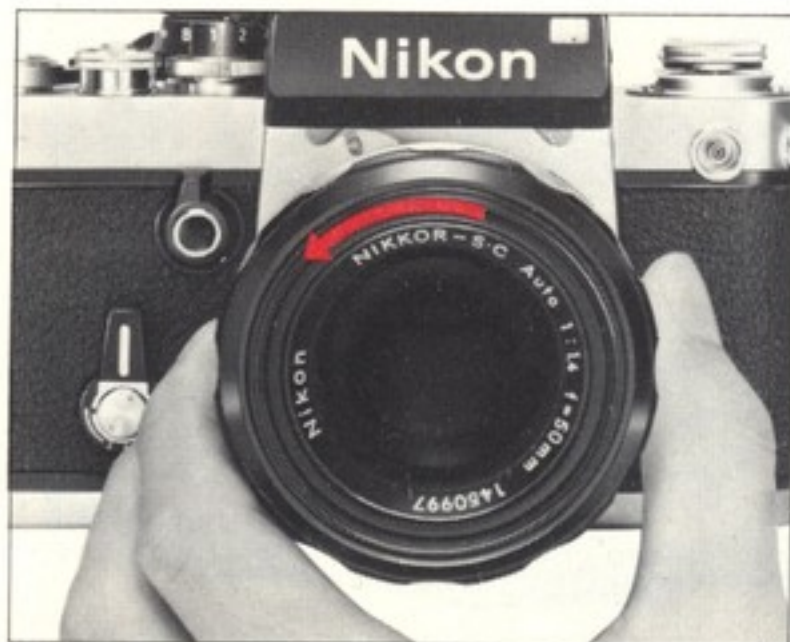
レンズの取り付け

ニコンF2フォトミックに、連動爪のあるレンズを取りつける場合は、単にカメラにレンズをつけるというだけでなく、露出計と連動させることが必要です。

フォトミックファインダーの連動ピンが中央（定位置）にあることを確かめてから始めてください。（中央になれば指先で中央に戻してください）



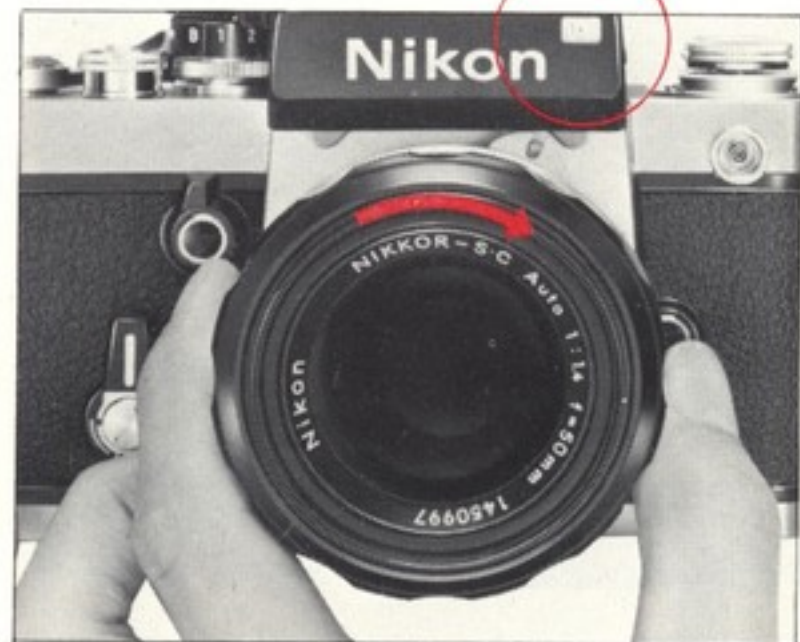
レンズの絞り指標とボディの着脱指標とを合わせてレンズをはめます。



レンズの白いリングを持って左へカチリと音がして止まるまで回します。(絞り指標が真上にきます)

絞りリングをf/5.6より小絞り側に回し、露出計の連動ピンとレンズの連動爪を結合させます。

レンズをはずす途中で元に戻して取りつけてはいけません。必ず、一度連動爪と連動ピンをはずしてから改めて取りつけてください。



絞りリングを開放絞り制限いっぱいまで回しますと、開放Fナンバーがセットされます。

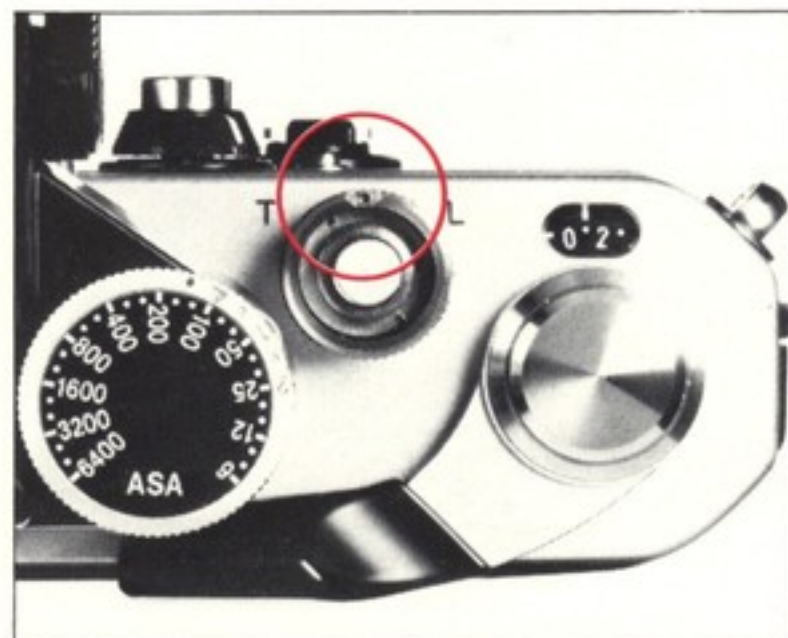
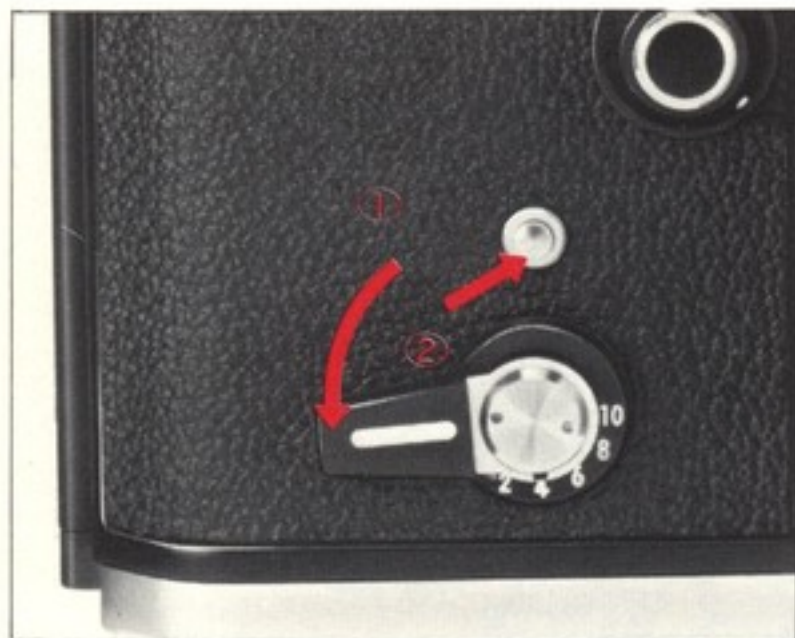
開放Fナンバーを表示窓で確認してください。

数字の中間の点で示されたFナンバー値は次のようになっています。

5.6	●	4.5
4	●	3.5
2.8	●	2.5
2			

セルフタイマー

T-Lリング



2秒から10秒までの任意の作動時間がセットできます。(赤線の範囲は使えません。)レバーを倒して、指標を希望の秒時に、合わせます。(写真は4秒のとき)次にスタートボタンを押せば、セットした秒時の後にシャッターが切れます。

セルフタイマーのセットは、巻上げの前でも後でもかまいません。

セルフタイマーをかけたときは、B(バルブ)のシャッターは使用できません。シャッターボタンでリリースすると、普通にシャッターが切れて、セルフタイマーは解除されてしまいます。

タイム(T)露出と、シャッターボタンをロック(L)するときに使います。リングはT、Lの文字の位置および中央位置に落ち込むようになっています。

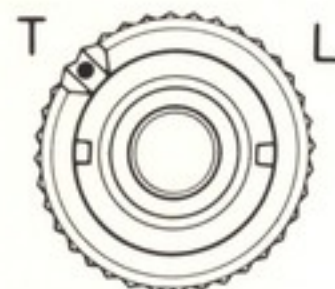
少し持ち上げて回してセットします。

T、Lを使わないときは、リング上の黒指標をTとLの中間のクリック位置にセットしておいてください。

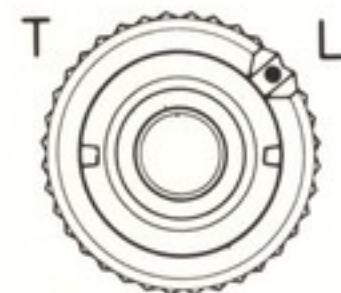
タイム(T)露出の場合は、T-LリングをTにセットします。

シャッタースピードはBにセットします。シャッターボタンを制限まで十分に押し下げて、ボタンは下がったままで、シャッターは開いたままになります。(ミラーは上っています)

T-Lリングを回し、指標を中央に戻すとシャッターが閉じて、ミラーが下がります。

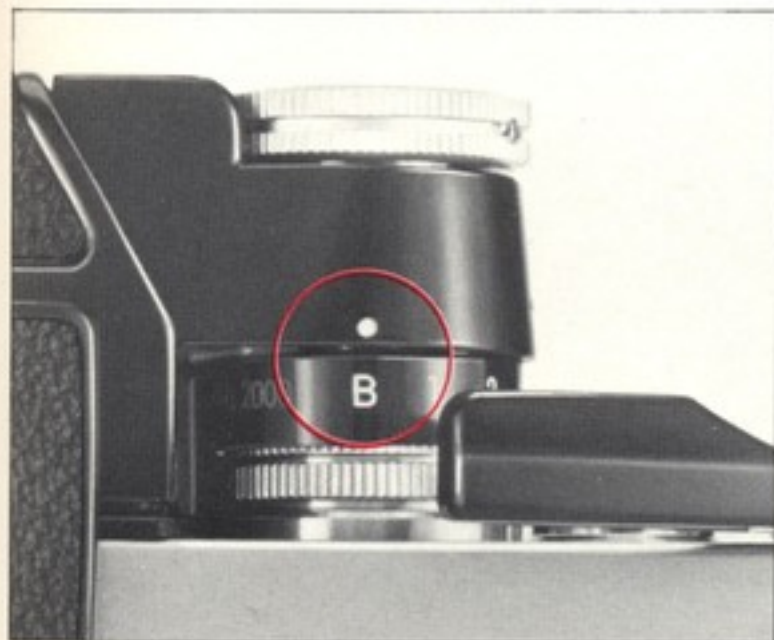


タイム(T)露出の場合



ロック(L)の場合

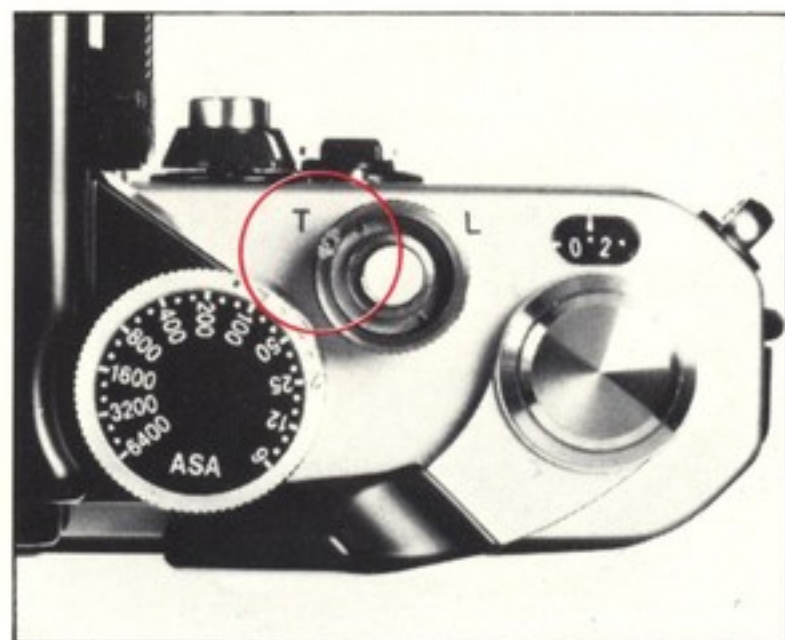
超スローシャッター



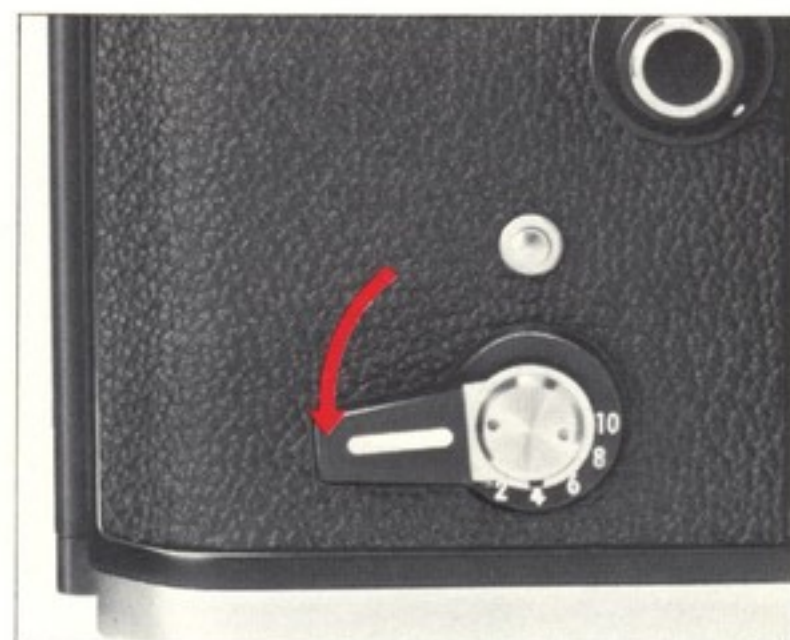
シャッタースピード目盛をBにセットします。

2秒～10秒の超スローシャッターが切れます。

T以外のシャッタースピードに戻すときに、T-Lリング指標をTとLの中間のクリック位置に戻すことを忘れないでください。



T-LリングをTにセットします。



セルフタイマーを希望の秒時にセットします。

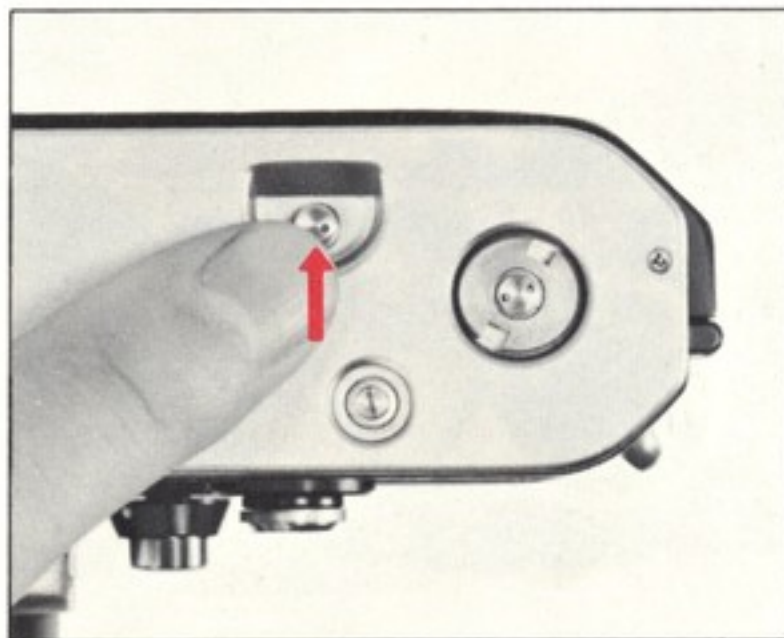
シャッターボタンを制限まで十分に押し、シャッターが開き、セットした秒数がたてば閉じます。

この場合は、セルフタイマーのスタートボタンを押してはいけません。シャッターボタンは下がったままですが、次の巻上げで元に戻ります。

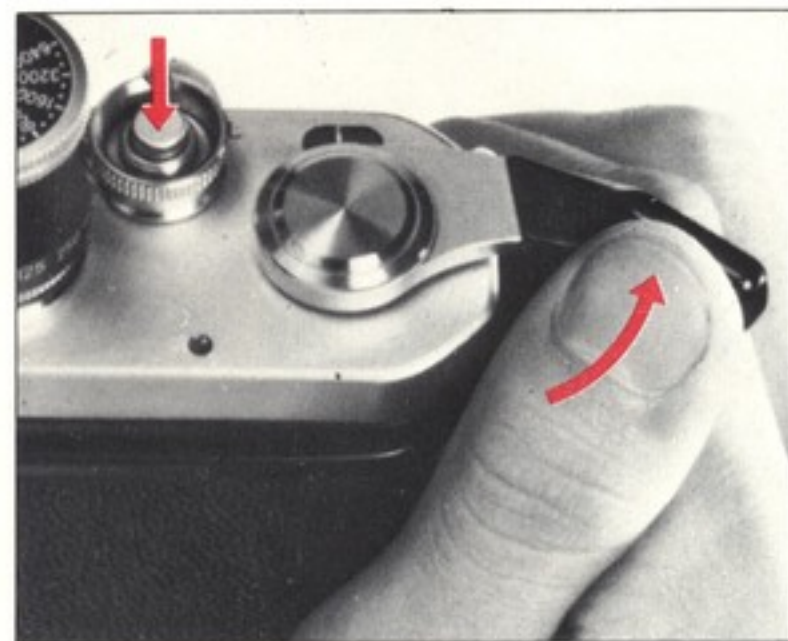
多重露出

巻戻し用ボタンを押してから巻上げると、フィルムは送られないで（フィルムカウンターは進みません）シャッターのみがチャージされますので、同一コマに繰返して露出ができます。

巻上げ中に巻戻しノブには触れないでください。



はじめの露出を与えます。
巻戻し用ボタンを押します。（ボタンは引込んだままになります。）



巻上げを行ないます。（ボタンは出てきます。）
次の露出を与えます。
この操作では、若干（0.2mm程度）フレームが動くことがあります。

完全に多重露出をする場合はつぎのようにしてください。フレームはまったく動きません。

①はじめの露出を与えます。
②巻戻し用ボタンを押したままで、巻上げを行ないます。
③次の露出を与えます。（ボタンは引込んだままになっています。）
これを希望の回数繰返します。

④最後に巻戻し用ボタンを押さなくて、巻上げを行ない（ボタンは出てきます）、
⑤レンズキャップなどで完全に光をしゃへいしてシャッターを切ります。（つまり、から写し操作を1回行ないます。）

ミラーアップ



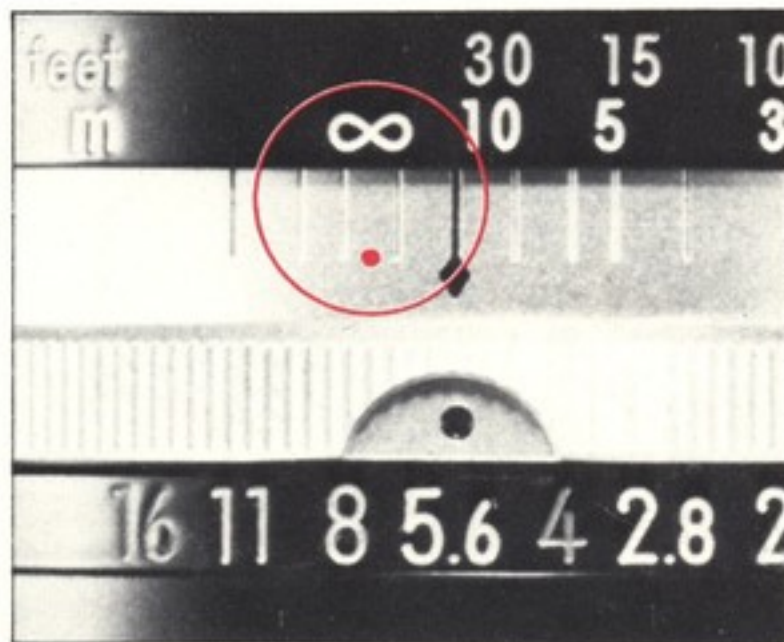
ミラーアップレバーをボディ側に押しつけながら下方に止まるまで（ボディ側の白線とレバーの白点が合うところまで）回せばミラーは上ったままになります。魚眼レンズ（オートでないもの）をつける場合や、モータードライブで高速連続撮影をする場合などに使用します。

ミラーアップの状態では、ファインダーは見えません。（露出計およびレンズの自動絞りも使えません。）

レバーを戻すときは、レバーでボディ側の白線がかくれるまで十分に戻してください。

レバーの位置が中途のまま巻上げをしないでください。

赤外マーク



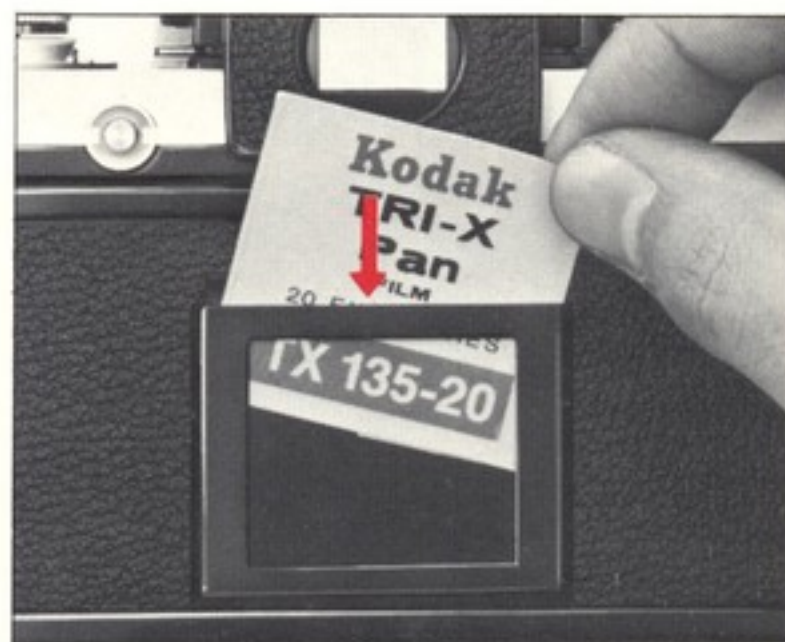
赤外線（黑白）フィルムとR60フィルターを使って、赤外写真を撮る場合は、眼でみてピントを合わせても赤外線でのピント面とは、少しずれていますので、このずれの量だけ修正が必要です。ニッコールレンズには、このための赤外線指標（赤点）または指標線（赤線）が距離指標の近くに設けてあります。（レフレックスニッコールなどのように、修正の必要のないレンズもあります。）

まず、フィルターなしで普通に被写体にピントを合わせます。

そのときの距離値を赤外マークに合わせ直し、フィルターをかけて撮影します。

（写真は被写体までの距離が無遠の場合です。）

メモホルダー



フィルム空箱の銘柄、種別、ASA感度値などのところを切取って、メモホルダーにはさんでおくことをおすすめします。（装填フィルムの覚えとして役立ちます）ネームを入れておくこともできます。

ファインダーの着脱

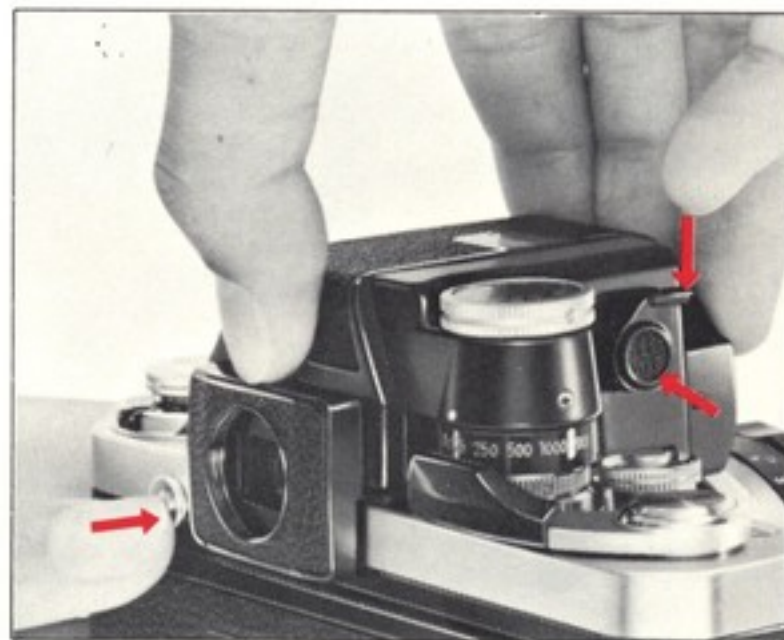
取りはずし

ファインダー交換、またはファインダースクリーンの交換のときにはフォトミックファインダーを取りはずします。

取りはずしたファインダーのプリズム面に指をふれないようにしてください。

取りはずす前にレンズの絞りをf/5.6か、それより開放側にセットしておく、取りつけのときに連動ピンを中央に置く（連動爪と連動ピンを連結させるため）手間がはぶけます。

ファインダー着脱ボタンは指の爪で押せますが、爪を使わないときは（ボタンにキズがつかないように）プラスチックか木製のもので押してください。



ファインダーの上部を前後からつまみ、他方の手でファインダー着脱ボタンを押します。同時に、あいている指でファインダー着脱レバーの基部（皮張のところ）を軸方向に押し、レバーを下方に（十分に）押しながら、ファインダーをまっすぐ上方に持ち上げるとはずれます。これらの操作は一動作でできます。ファインダーをいったんボディに押しつけておいてボタンを押すのがコツです。

取りつけ



レンズの絞りをf/5.6か、それより開放側にセットします。

連動ピンが中央にあるか確認してください。（中央にないときは指先で中央に戻してください）

フォトミックファインダーの取りつけは、露出計の機能と関連がありますので、慎重に確実に行ってください。

カメラにレンズがついていない場合は、Fナンバーのセットの操作は必要ありません。露出計の内蔵されていないファインダーを取りつけるときは、ファインダーをボディに押し込むだけですみます。



ファインダーを入れて上から押し、浮きあがっていないか、前方の保持爪はピンにかかっているか、確かめてください。



シャッターセッティングリングを回してカチリと落込ませ、ボディのシャッターダイヤルと連結させます。

次にフィルムのASA感度をセットします。(P.13参照)



続いて絞りリングを回して開放Fナンバーをセットします。(P.29参照)

他のファインダーと交換したとき

フォトミックSファインダーDP-2では、2個の露出指示ランプの同時点灯を確認するだけで露出が決められます。ファインダー交換の要領は、フォトミックファインダーDP-1の場合と全く同様です。他のファインダーには露出計がありませんので、交換時にFナンバーのセットの考慮は不要です。

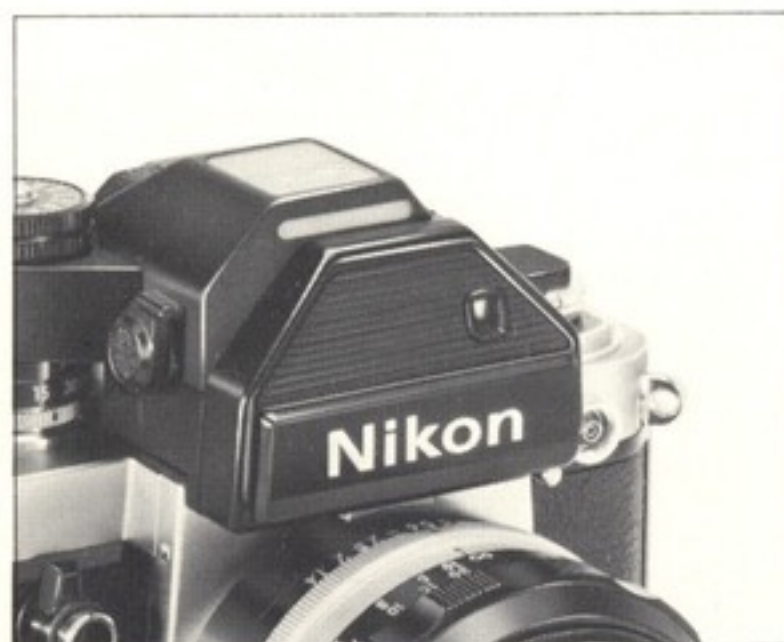
ファインダーを入れて上から押すだけで済みます。



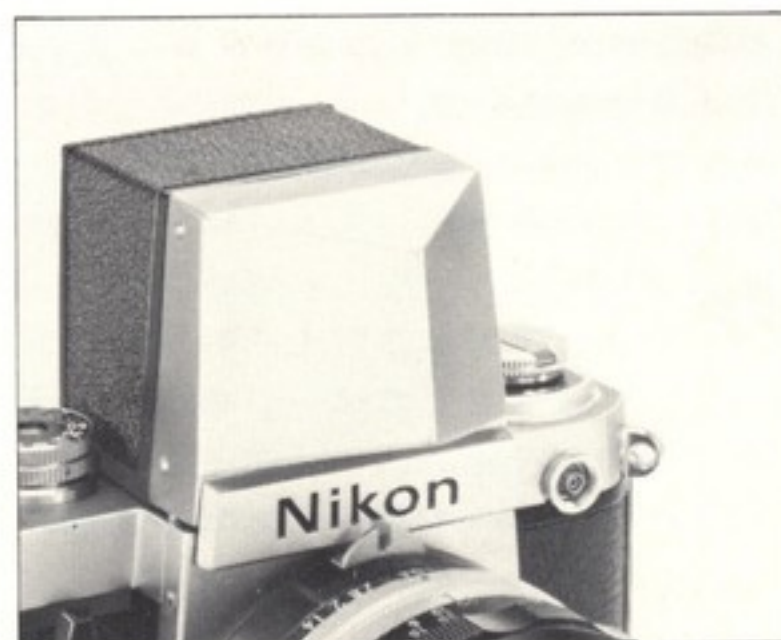
アイレベルファインダーDE-1



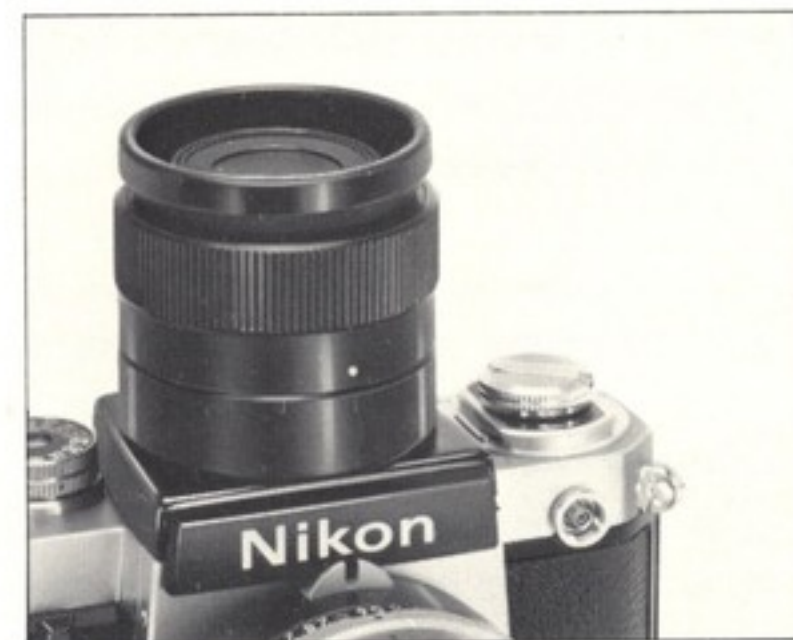
ウエストレベルファインダーDW-1



フォトミックSファインダーDP-2



アクションファインダーDA-1



高倍率ファインダーDW-2


ファインダースクリーンの交換

巻上げ表示線

シャッタースピードのセットは、ボディのシャッターダイヤルのギザを回して、指標に合わせます。(左右どちらに回してもかまいません)

シャッターダイヤルの中央部の黒線の位置によって巻上げ前か、巻上げ後かがわかります。

この黒線は、巻上げの際とシャッターを切ったときに回転します。

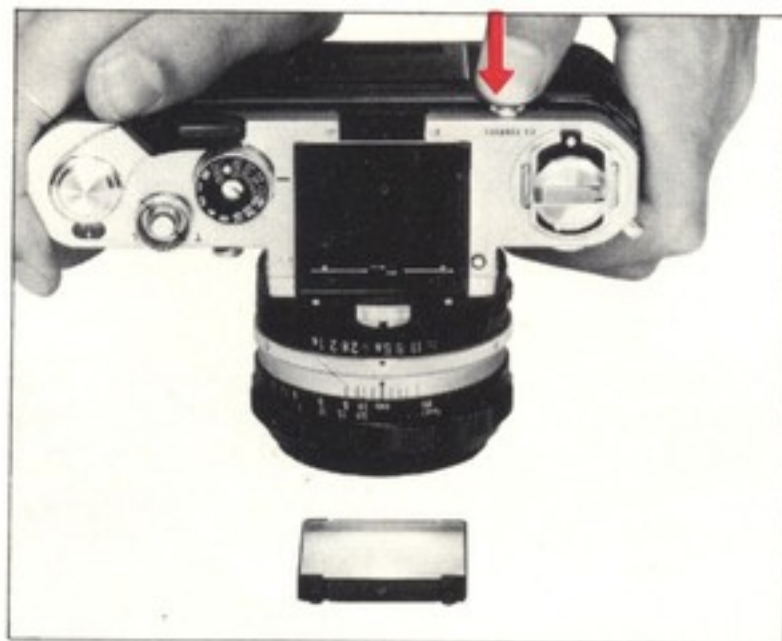
黒線の位置が、の位置以外にあるときは、巻上げ不足です。(シャッターは切れません。)



巻上げ前 (黒線が斜下向)
シャッターは切れません。



巻上げ後 (黒線が水平向)
シャッターが切れる状態です。



取りはずし

まずファインダーをはずしてから(P.34 参照) 手か柔らかな物の上でカメラを逆さにしてファインダー着脱ボタンを押しますと、スクリーンがはずれて落ちます。使用レンズの種類や被写体によって適したファインダースクリーンと交換することができます。

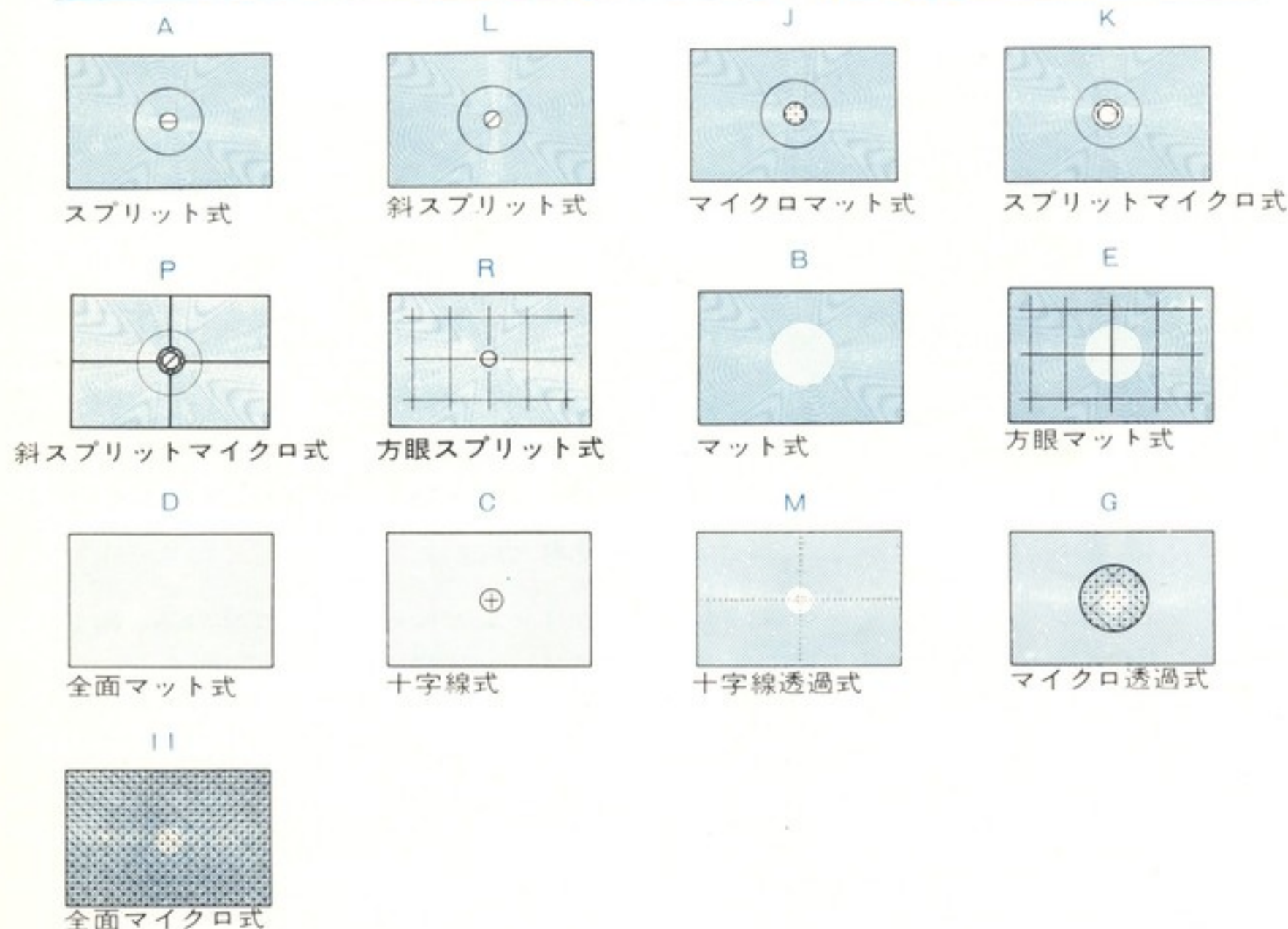
ファインダースクリーンの表面に指紋やゴミがつかないようにご注意ください。



取りつけ

スクリーンのNikon Fと文字のある側を前方(レンズ側)に、平らな面を下にして入れ、ファインダー着脱ボタンを押すとボタンと落込み固定されます。

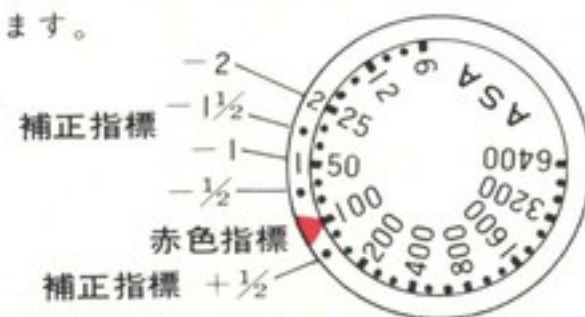
ファインダースクリーンの種類



ニコンファインダースクリーンには、13形式19種類のものがあります。
C、D型を除きすべてフレネル入りですので、隅まで明るく見られます。

表の見かた

- 構図の決定やピント合わせの目的には
 - 印…好適であることを示します。
 - 印は、スプリットプリズム部、マイクロプリズム部、あるいは十字線ではピント合わせができないので周囲のマット面でピントを合わせます。
 - 印…視野の一部が多少見にくくなりますが使用可能で、撮影結果には全く害がありません。
 - ×印…F1.2～F2.8クラスの明るいレンズでは、スプリットの合致像は見えますが、ピント合わせ精度上適しません。
- 露出決定の目的には、
 - ……開放測光で露出が決められることを示します。
 - ① 数字のないものはASA目盛のセットの際に▼（赤色指標）に合わせることを示します。
 - ② 数字のあるものはその数字に相当する補正指標（下図参照）に合わせることを示します。



- G・H型は、絞込み測光には不適當です。
- ……レンズの構造上絞込み測光でないと露出を決められないものを示します。
- ……開放測光、絞込み測光の何れでも露出は決められないものを示します。ただし、ピント合わせには使えます。
- 空欄のところは使用不適當です。

ファインダースクリーンとレンズの組合わせ

ファインダースクリーンの型		A/L	J	K/P	R	B	E	D	C	M	G 1	G 2	G 3	G 4	H 1	H 2	H 3	H 4
魚眼	6mmF2.8	○	○	○	×	○	○	○-1/2	●-1/2		○	○			○	○		
	8mmF2.8	○	○	○	×	○	○	○-1/2	●-1/2		○	○			○	○	○	
	16mmF3.5	○	○	○	○	○	○				○-1/2				○			
広角	15mmF5.6	●	○	●	○	○	○					○-1 1/2				○-1/2		
	20mmF3.5	○	○	○	○	○	○				○-1/2				○			
	24mmF2.8	○	○	○	×	○	○					○			○+1/2	○		
	28mmF2	○	○	○	×	○	○				○+1/2	○+1/2			○+1/2	○+1/2		
	28mmF3.5	○	○	○	○	○	○				○-1/2				○			
	35mmF1.4	○	○	○	×	○	○					○+1/2			○+1/2	○+1/2		
	35mmF2	○	○	○	×	○	○				○+1/2	○			○+1/2	○		
	35mmF2.8	○	○	○	×	○	○				○-1/2				○	○		
標準	45mmF2.8	○	○	○	×	○	○				○				○			
	50mmF1.4	○	○	○	×	○	○					○+1/2				○+1/2		
	50mmF2	○	○	○	×	○	○				○+1/2	○+1/2			○+1/2	○+1/2		
	55mmF1.2	○	○	○	×	○	○					○				○		
	望遠	85mmF1.8	○	○	○	×	○	○					○+1/2			○+1/2	○+1/2	
105mmF2.5		○	○	○	×	○	○					○			○+1/2	○+1/2		
135mmF2.8		○	○	○	×	○	○	○	○			○	○			○+1/2		
135mmF3.5		○	○	○	○	○	○					○-1				○		
180mmF2.8		○	○	○	×	○	○	○	○				○			○	○	○
200mmF4		○	○	○	○	○	○	○	○				○-1 1/2			○-1		
300mmF4.5		○	○	○	○	○	○	○	○					○-1 1/2		○-1 1/2	○-1	○-1 1/2
400mmF5.6		●	○	●	○	○	○	○	○					○	○		○	○
ズーム	43-86mmF3.5	○	○	○	○	○	○					○-1/2				○-1/2		
	50-300mmF4.5	○	○	○	○	○	○						○-2	○			○-1 1/2	○
テレズーム	80-200mmF4.5	○	○	○	○	○	○						○-1			○-1 1/2	○-1 1/2	
	85-250mmF4	○	○	○	○	○	○						○-1 1/2	○-2			○-1	○-1 1/2
マイクロP	55mmF3.5	●	●	●	●	○	○					○				○		
P C	35mmF2.8	●	●	●	×	○	○									○		
ベローズ用	105mmF4	●	●	●	●	○	○	○	○	○								○
メディカル	200mmF5.6	●	●	●	●	○	○									○	○	
望遠	400mmF4.5	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○			○	○
	600mmF5.6	●	○	●	○	○	○	○	●				○	○			○	○
	800mmF8	●	●	●	●	○	○	○	●				○	○			○	○
	1200mmF11	●	●	●	●	○	○	○	●				○	○			○	○
反射	500mmF8	●	●	●	●	○	○	○	○									○
	1000mmF11	●	●	●	●	○	○	○	○									○
	2000mmF11	●	●	●	●	○	○	○	○				○	○				○
テレズーム	200-600mmF9.5	●	●	●	●	○	○	○	○				○	○			○	○

フラッシュ撮影

各種のフラッシュユニットが使えます。撮影距離に対する絞り値などは、ご使用のフラッシュユニットやスピードライトおよびフラッシュランプの級によってお決めください。

スピードライト(ストロボ)SB-1の場合、コードをシンクロソケットに差込みます。クリップオンタイプのもは、ガンカプラーが必要です。

タイムラグのある特殊なスピードライトの場合は、タイムラグに応じてシャッタースピードを $\frac{1}{30}$ 秒またはそれより遅くしてください。

フラッシュランプのときはミラーアップの状態では $\frac{1}{125}$ 秒より高速は使えません。

フラッシュランプの型名のあとに、Bのついたもの(下表参照)は、デーライトタイプのカラーフィルム用および、黑白フィルム用です。黑白フィルム用には、Bのないものでも使えます。



ニコンフラッシュユニットBC-7型の場合はアクセサリースューに差込むだけで、コードは不要です。

同調範囲

■ 同調 ■ 同調せず

X接点のシャッタースピードは $\frac{1}{80}$ 秒です。

フラッシュランプ			シャッタースピード (秒)													
級	メーカー	型名	$\frac{1}{2000}$	$\frac{1}{1000}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	X接点	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	B
FP	東芝	6B,PRESS6B	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ナショナル	6B,PRESS6B	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
M	東芝	5B,3B,PRESSB	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ナショナル	5B,3B,PRESSB	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
MF	東芝	AG-3B	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ナショナル	AG-3B	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
スピードライト(ストロボ)			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

レディライト



ニコンスピードライトSB-2（調光式）を使用すれば、コードレスで取り付けられ、レディライト接点にも直結できます。



一般のフラッシュユニットの場合はガンカプラーが必要です。ニコンガンカプラーA S-1はホットシュー付きです。



F2フォトリックファインダーにはレディライト（接眼窓部のランプ）が内蔵されています。

ニコンスピードライトSB-2使用の場合、シャッターを切る（発光する）とレディライトが消え、充電が完了すると点灯しますので、ファインダーを覗いたままで眼を離さずに充電完了が確認できます。スピードライトSB-1を使用するときは、レディライトアダプターSC-4を併用すればレディライトと接続できます。このアダプターを使用すればシンクロコードは不要です。

ニコンF2用 **モータードライブ MD-2**

ニコンF2 フォトミックのモータードライブ装置は完璧な互換性、正確な作動、きびしい使用条件にもビクともしない耐久性など他に類をみない機構と抜群の性能をもっています。裏ぶたを取りはずすことなく、無調整で簡単に装着できます。1秒間最高5コマ（15Vニッカド電池、AC/DCコンバーター使用）の高速連続撮影が可能です。

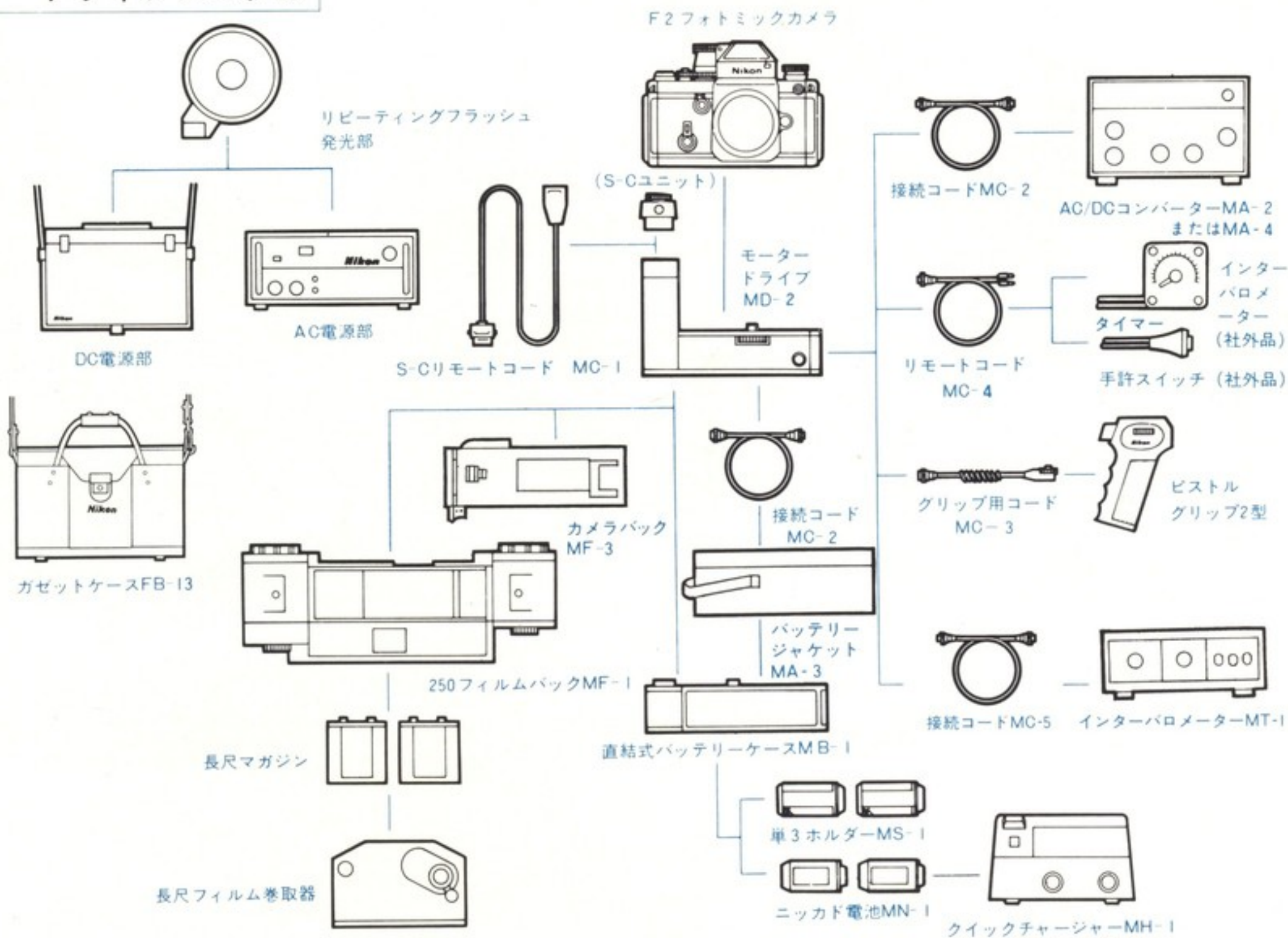
また、カメラの裏ぶたをはずして、別売りのカメラバックMF-3を取りつけば、巻戻し終了後、自動的にモーターが停止します。

250枚撮りフィルムバックも用意されており各分野の幅広い要望に備えています。

（カメラをフィルムバックに取り付ける際は、三角環を取りはずしてください。カメラに三角環と当て革を付けたままですと取り付けが困難になります。）



モータードライブシステム



被写界深度

ある絞りで被写体にピントを合わせた場合、その被写体の前後のある距離の範囲が鮮明で、それ以外は被写体から離れるに従ってだんだんボケが大きくなります。この鮮明な範囲が被写界深度で、範囲が広いときに、深度が大きいといえます。

- この深度は、同じ焦点距離のレンズでは
- ①絞込むほど深く、絞りを開くほど浅くなります。
 - ②被写体距離が遠いほど深く、近いほど浅くなります。
 - ③ピントを合わせたところより、後方に深く、前方に浅くなります。
- 異なるレンズ、またはズームレンズでは（同一絞りで）レンズの焦点距離が短いほど深く、長いほど浅くなります。

ニッコールレンズでは、この被写界深度が、距離指標の両側に、絞り値と同じ色の線で示されています。範囲はその線が示す距離目盛で読むことができます。

ここに示す例では、50mmF1.4レンズで5mの距離にピントを合わせた時の各絞りにおける被写界深度を示します。この被写界深度を上手に利用することによって、写真に味わいをつけることができます。単に被写体にピントを合わせるだけでなく、そのときの被写界深度のことも頭に入れて写しましょう。



f/4の場合

主要被写体のところだけ(4m-7m)が鮮明です。



f/8の場合

主要被写体の前後かなりのところ（3.5m～10m）まで鮮明です。

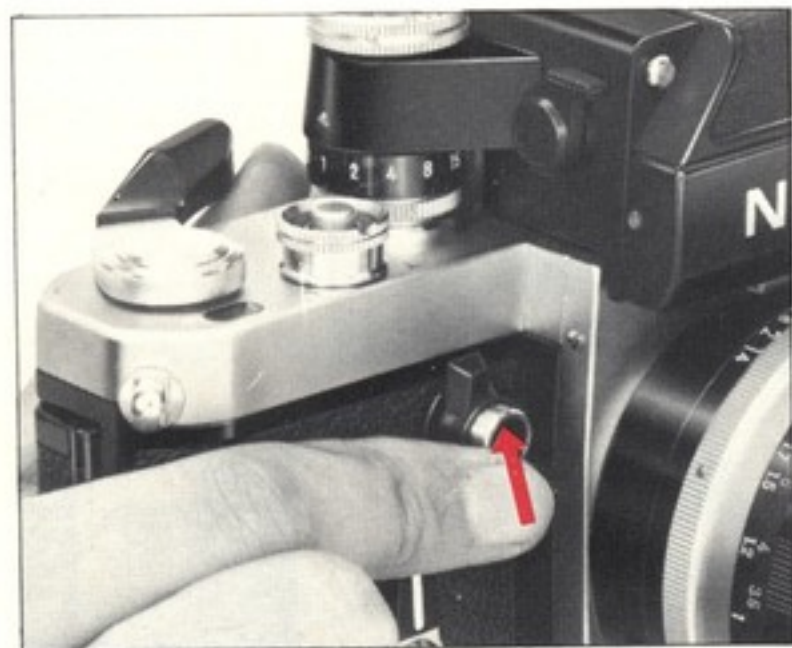


f/16の場合

近景から遠景まで（2.6m～∞）鮮明です。



絞込みボタン



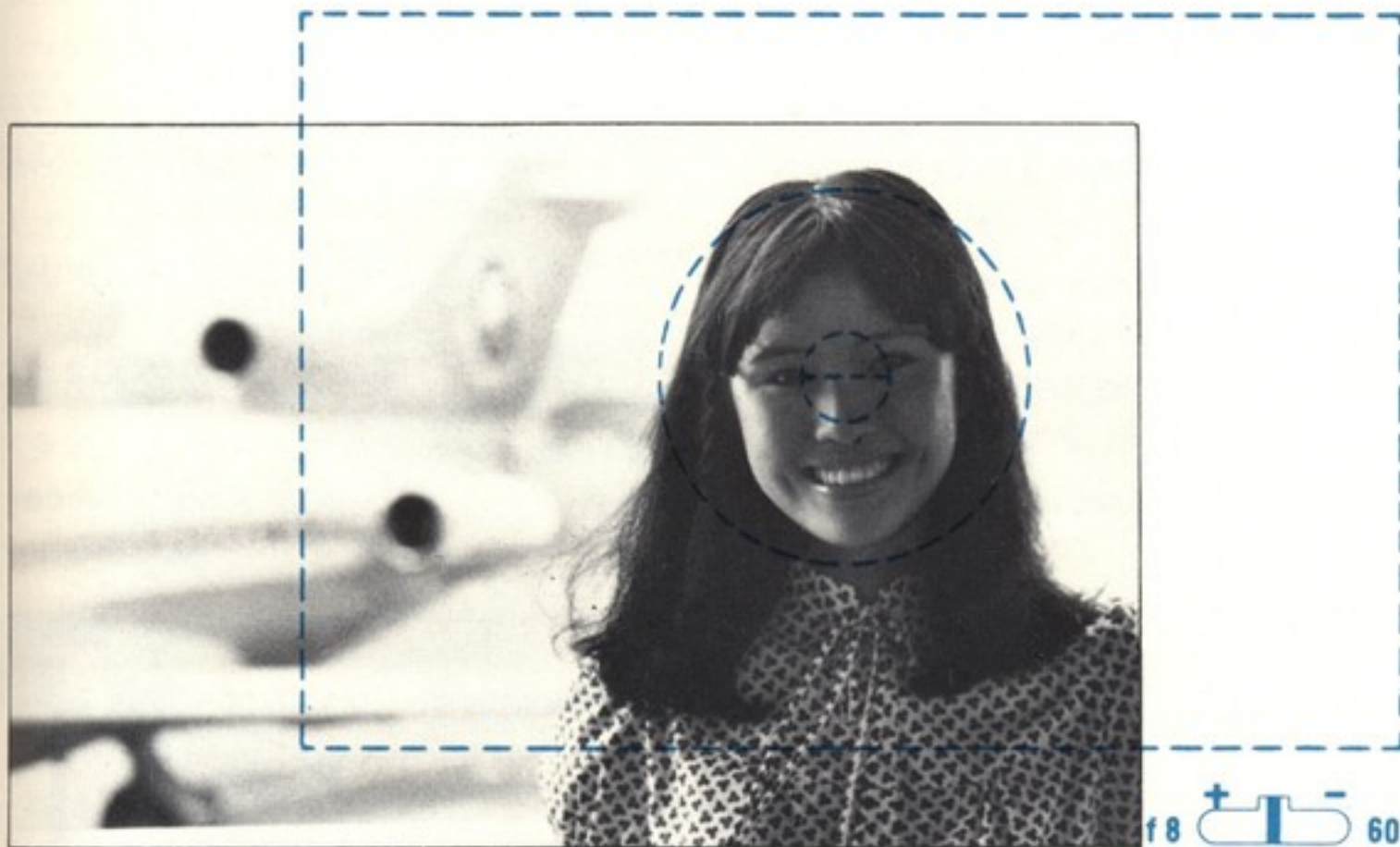
オートレンズの場合、このボタンを押しながらファインダーをのぞくと、レンズはセットした目盛値まで絞られ、そのときの被写界深度の状態が見られます。

特殊な場合の露出の決定



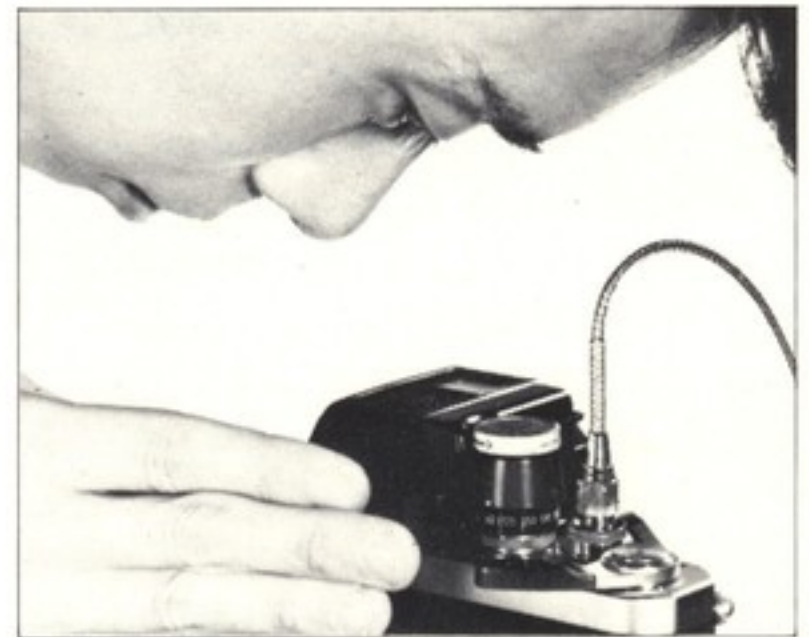
f8 250

室内や窓ぎわの人物をカメラを明るい方に向けて写す場合とか、木陰の被写体のバックに明るい空がある場合などで、しかも主要被写体が画面の中央にないときは、測光に多少の考慮が必要です。



f8  60

このようなときは、測光のときだけ、主要被写体を中央にもってきて露出を決め、そのまま元の構図の位置に戻してシャッターを切ります。



カメラから顔を離して撮影するとき、接眼窓から直射光がはまらないように工夫して測光します。

接写

レンズに記入されている至近撮影距離よりもさらに近距離を写すために次のようなアクセサリーが販売されております。

①接写補助レンズ No.0、No.1、No.2

これはレンズの先端に取付けて用いますので露出は開放測光で決められます。

②接写リングE₂型、K型

③ペローズアタッチメントPB-4、PB-5

これらは、レンズとカメラボディの間に取付けて用います。運動爪が使えませんが、絞込み測光で露出を決めます。

標準レンズでは $\frac{1}{10}$ 倍前後までの接写しかできませんから、それ以上の接写をする場合は接写リング（E₂リング、またはKリング）か接写補助レンズ（No.0、No.1、No.2）をご利用ください。

ペローズアタッチメントは、蛇腹を伸縮して連続的に撮影倍率が変わります。

④その他

①②③を互いに併用することもできます。また、接写性能を特に考慮したマイクロニッコールPオート55mmF3.5やペローズ用ニッコール105mmF4があります。マイクロニッコールPオート55mmF3.5（絞り補正機構なし）を使用する場合で

撮影倍率が $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{4}$ の場合は、M₂リングを使用して絞込み測光で露出を決めます。マイクロニッコールPオートの絞りはオート絞りですから絞込み測光は絞り込みボタンを押しながら行ないます。倍率が大きいときは接眼窓からの入射光に対して注意する必要があります。

接写をすると一般に被写界深度が著しく浅くなります。そのため奥行のある被写体は、できるだけ絞って撮影する必要があります。

ピント合わせは、スプリット部やマイクロプリズム部では見にくくなりますのでマット面で行なってください。

距離基準面

ニコンF2フォトミックでは、カメラの上カバーに彫刻してある製造番号の上端がフィルム面の位置に当たります。

被写体までの距離は、すべてここから測った値です。

レンズ取り付け面からフィルム面までの寸法は46.5mmです。



複写

一般の複写

ニコンF2 フォトミックの付属品としてニコン複写装置PF-2が用意されております。

複写用レンズとしては50mmF2の方が50mmF1.4や55mmF1.2よりも、接写性能は優れています。さらに精密さを要する場合は、マイクロニッコールPオート55mmF3.5が最良です。これには接写リングは不要です。

露出の決め方

①写真印画や絵画など、連続階調のあるものの場合

一般撮影と同じく、開放測光または絞込み測光で撮影します。

②文書や図面などコントラストの強いものの場合

白地、黒地にかかわらず、白紙（ケント紙、またはそれに近い白さをもつもの）を置いて測光して露出計指針を確かめた後、補正を行なうとよい結果が得られます。

露出の補正参考値

（カラー反転フィルム、カラーネガフィルム、一般用パナクロフィルム使用の場合）

約2段露出を多く

スライド複写

スライド複写用の付属品としてスライド複写装置PS-4、PS-5があります。ニコンベローズアタッチメントPB-4、またはPB-5と組合わせて使用します。（使用レンズにより撮影できる倍率範囲は異なりますから、詳細はスライド複写装置の使用説明書をご参照ください。）

露出の決め方

①連続的な階調のあるフィルム（普通の写真）を複写する場合

絞込み測光で撮影します。

②文書や図面を撮影したフィルムを複写する場合

白地に黒文字のときは露出計の指示より1½段露出を多く、黒地に白文字のときは½段露出を少なく補正してください。ニコンスライド複写装置使用の場合はフラッドランプを複写装置の乳白板から約30cmに置いてください。

顕微鏡写真

顕微鏡にカメラを装着して撮影する場合は、レンズははずしてカメラのバヨネット顕微鏡アダプターか顕微鏡写真装置に取り付けます。

露出の決め方

フォトミックファインダーの露出計連動ピンは、押込んで絞込み測光の状態にしておきます。

シャッタースピードを変えるか、照明の明るさを変えて露出計の指針を中央に合わせます。

顕微鏡写真の場合は一般に露出を多く補正する方がよい結果が得られます。

露出の補正参考値

(カラー反転フィルム、カラーネガフィルム、一般用バシクロフィルム使用の場合)

ASAを3目盛少なく(1段露出時間を長く)

- 上記の補正値は顕微鏡写真に適したC型ファインダースクリーンを使用した時の実験による参考値です。

- 顕微鏡写真の露出は標本の染色、分布、コントラストの違い等により多少異なりますので実験により補正値を決定されることをおすすめします。

顕微鏡写真撮影装置

顕微鏡写真撮影用として次のものが用意されています。(詳細は顕微鏡のカタログをご参照ください。)

顕微鏡写真アダプター

顕微鏡とカメラを接続する簡単なアダプターです。(1/2倍撮影レンズつき)

顕微鏡写真撮影装置PFMF

すべてのニコン顕微鏡に装着できますが、実体、偏光顕微鏡には別に接眼アダプターが必要です。(専用ファインダーつき、シャッター内蔵X接点つき)

備考

- ① カメラのシャッターを使用し、10×以上の対物レンズを使用して高倍率の写真撮影をする場合には、カメラブレ防止のために「ニコン顕微鏡写真撮影用スタンド」の使用をおすすめします。
- ② カメラのファインダースクリーンとしては、A、B、C、J型などのマット面付のもの、特にC型(十字線入り)をおすすめします。
- ③ これらの装置の他に、露出計を内蔵している顕微鏡写真装置EFMFおよびAFMFがあります。

露出の補正

露出を補正するには、次の2通りの方法があります。

①測光（露出決定）した後、シャッター速度または絞りを補正值だけ動かして撮影する方法。

シャッターダイヤルおよび絞り目盛の1目盛は1段です。たとえば、1段多く補正するときは、シャッターか絞りどちらかの目盛を数値の小さい方へ1目盛ずらします。

②測光する前に、ASAダイヤル上で指標を補正值だけずらしてセットしておき、それから測光してそのまま撮影する方法
たとえば、ASA100のフィルムを使用した場合

1段多く補正 …… ▼指標を50に合わせる

1½段少なく補正 …… ▼指標を200と400の中央にする

ASAダイヤルは、数字のある目盛の間が1段でその間は1/3段ごとに・点がつけてあり、さらにその半分（1/6段）ごとにセットできるようになっています。



複写、スライド複写、顕微鏡写真の際の注意

- 複写や顕微鏡写真の場合に示した露出補正值は、一応の目安ですから実際には実験によって、さらに適正な補正をしてください。
- カラー反転フィルムの場合はラチチュードが小さいので、指針を合わせて撮影する他に
明るい感じの被写体のとき……露出を1段階多くして1枚
暗い感じの被写体のとき……露出を1段階少なくして1枚
撮影しておくことをおすすめします。
- 複写用マイクロフィルムの場合はラチチュードが非常に小さく、現像条件やフィルム乳剤番号によっても結果が変わりますので、試し撮りを行なって露出をお決めください。
- 振動やショックを極度に嫌う場合は、電源スイッチによる照明の点滅で露出を与える方法があります。
- カメラぶれを防ぐために、ケーブルリリースをぜひご使用ください。

フィルター

ニコンフィルターには、右表のような種類があり、大別してねじ込み式と平枠式の2つの形式のものがあります。

ねじ込み式は、直接レンズの前枠にねじ込んで用います。

平枠式は、フィルターホルダーを兼ねたレンズフードか、アダプターリングなどの間にはさんで用います。

なお、ニコンF2 フォトミックの場合は右表に示すフィルターファクター（露出倍数）は考慮する必要はありません。

フォトミックファインダー以外のファインダーをつけた場合は、フィルターファクターを考えて露出を決めてください。たとえば、L37をY52と取りかえたときは、絞りを1段開いてください。（シャッターを1段遅くしても同じです）

フィルターをレンズの保護のため常用する場合は、L37の使用をおすすめします。逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりするときには、場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影される方がよいでしょう。

種類	記号	露出倍数		ねじ込みサイズ(mm)					平枠		
		昼光	タングステン灯	39	52	72	95	122			
黒白・ カラー用	スカイライト	L1B	1	1	○	○	○				
	紫外線	L37	1	1	○	○	○				
		L39	1	1		○	○	○	○	○	
黒白 用	黄	淡	Y44	1.5	1		○			○	
		中	Y48	1.7	1.2		○	○	○	○	
		濃	Y52	2	1.4	○	○			○	
	橙	056	3.5	2	○	○	○	○	○	○	
	赤	R60	6	5	○	○	○	○	○	○	
	黄緑	淡	X0	2	1.7		○				
		濃	X1	5	3.5		○				
黒白・ カラー用	偏光	Polar	2~4	2~4		○	○				
	ニュートラル デンシティ	ND 2×	2	2	○						
		ND 4×	4	4	○	○	○				
ND 8×		8	8	○	○						
カラー用	アンバー	淡	A2	1.2	○	○					
		濃	A12	2	○	○					
	ブルー	淡	B2	1.2	○	○					
		中	B8	1.6	○	○					
		濃	B12	2.2	○	○					

他にレフレックスニッコール専用のものもあります。○は販売中です。

レンズフード

レンズフードは、斜め前方または側方からの強い光が直接レンズ面にはいるのを防ぐためのもので、ニコンレンズフードには、スプリング式、ねじ込み式、かぶせ式、およびレンズに組込まれていて引出して使うものの4種類があります。スプリング式とねじ込み式のフードは、レンズに直接にも、レンズにつけたフィルターの前にも取りつけることができます。

各種のニッコールレンズにそれぞれ専用のフードが用意されています。(レンズによっては共通に使うものもあります。)

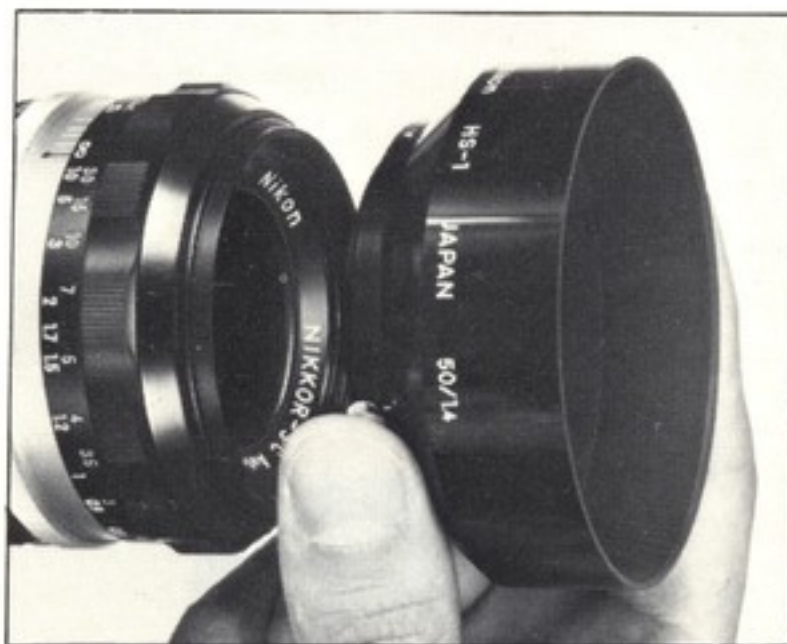
スプリング式フード

ボタンを押すだけで簡単に取りつけができ、使わない時は逆さにしてレンズにかぶせておくことができます。

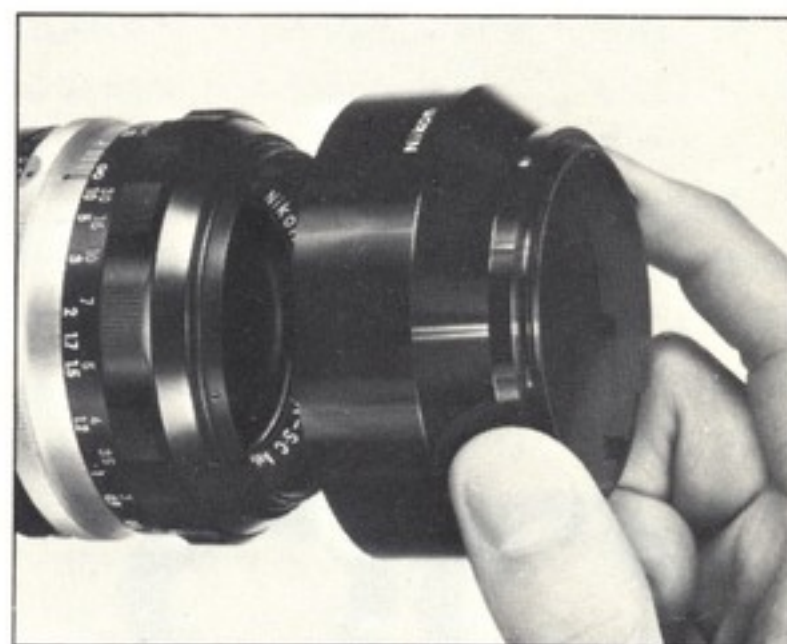
標準レンズでは、そのまま皮ケースに入れます。

ねじ込み式フード

レンズ前面にねじ込んで取りつけます。ねじ込みフィルターと共に用いることができます。



スプリングフードの取り付けは、両側のボタンを押しながら、レンズの前端にはめ、ボタンを離します。



スプリングフードの収納は、フードを逆向きにして、前向きするときと同様に取ります。

接眼補助レンズ

近視、遠視、老眼などの方のための補正レンズです。

+3、+2、+1、+0.5、0、-2、-3、-4、-5の9種があります。

接眼窓にねじ込んで使います。

枠だけで、レンズのないものも販売しております。



近視の人で、連続接写などでメガネをはずして撮影したい場合とか、老眼などでシャッターダイヤルやレンズの目盛を見るためにメガネをかける人がファインダーを見る場合などに、この補助レンズを併用すると有効です。

個人差が大きいので店頭で実際につけてみてお選びください。

接眼目当て

眼のまわりから接眼部にはいり込む光を遮断し、ファインダーの像を見やすくしたり、測光の際の誤差を除くためのもので、接眼窓にねじ込んで使います。

接眼補助レンズ併用の場合は、あらかじめ接眼目当ての内側に補助レンズをねじ込んでおき、一緒に接眼窓にねじ込みます。黒色合成ゴム製です。



カメラ用ソフト ケース CS-12

表側、裏側とも柔らかい牛革を素材にした高級ソフトケースで、かぶせと胴とが胴背面の3個のスナップによって取りはずしできるようになっています。

ニコンF2カメラに、ニッコールオート55mmF1.2(フィルター、ラバーフード、キャップ付き)より短いレンズを装着して収納できます。



カメラの手入れと保存

どんなよいカメラでも、適切な手入れと整備がしてなければ、十分な性能は発揮できません。あなたのカメラを長持ちさせるために、ふだんの手入れをお忘れなく。

- 金属の部分は、ブロー（ゴム球）やレンズバケでゴミやホコリをよく払い、乾いた柔らかい布でよく拭きます。
- レンズやファインダー接眼窓、プリズム面などのガラス面はむやみに拭かないで、ホコリを払う程度にしてください。
どうしても拭く場合は、柔らかい清潔な木綿に、ごく少量のアルコール（できればアルコールとエーテルを約半々の割合で混ぜたもの）を湿して中心から外側へ渦巻状に軽く拭きます。
- ミラーとファインダースクリーンは、ブローでホコリを払う程度にしてさ

わらないでください。特にミラーはキズがつきやすいのでご注意ください。

- カメラもレンズもホコリ、湿気、塩分をさらいます。湿気の多い時期は、カメラを皮ケースから出して通風のよいところに置くようにしてください。
- 水しぶきのあるところや霧の中を持ち歩いた後は、よく拭いて乾かしてください。特に海辺などで使ったときは、真水を浸した布で塩分を拭き取ってから手入れしてください。

- 通常は給油の必要はありません。
- 長期間カメラをお使いにならないときは保存の場所に注意して、高温多湿のところはさけてください。乾燥剤を入れた容器に入れておけば最良です。
- しばらく使わないで急に旅行などにお持ちになる場合、または、重要な記録をとる場合などは、フィルムを入れる前に、まず念入りに機能を点検してください。

カメラ番号・保証番号のメモ

保証番号	No.	購入年月日	年 月 日
ボディ番号	No.	レンズ番号	No.
住所氏名			



日本光学工業株式会社

本社・100 東京都千代田区丸の内3-2-3 (富士ビル) 電話 (東京03) 214/5311 (大代表)
サービス課・143 東京都大田区大森北6-19-12 電話 (東京03) 764/2601 (代表)
〈営業所〉
大阪・542 大阪市南区安堂寺橋通2-26 (大阪写真会館) 電話 (大阪06) 262/3271 (代表)
名古屋・450 名古屋市中村区広井町3-88 (大名古屋ビル) 電話 (名古屋052) 563/2881 (代表)
広島・730 広島市袋町3-19 (東邦生命ビル) 電話 (広島0822) 48/1216 (代表)
福岡・810 福岡市中央区天神2-12-1 (天神ビル) 電話 (福岡092) 721/3561 (代表)
仙台・980 仙台市中央3-2-1 (仙台清水ビル) 電話 (仙台0222) 27/1237 (代表)
札幌・060 札幌市中央区大通西1-13 (大通ビル) 電話 (札幌011) 231/7896 (代表)
新潟・951 新潟市西堀通り5-855 (コーリンビル) 電話 (新潟0252) 22/1461 (代表)
横浜・220 横浜市西区北幸1-1-13 (横浜駅前ビル) 電話 (横浜045) 312/1101 (代表)
〈サービスセンター〉
東京・100 東京都千代田区丸の内2-5-2 (三菱ビル) 電話 (東京03) 215/0561・0562
〈サービスセンター修理部〉
東京・100 東京都千代田区丸の内1-2-1 (東京海上ビル) 電話 (東京03) 212/1608・1609